DiMAGE Xg

J 使用説明書

目次

お買い上げありがとうございます。
ディマージュXgは、軽量・コンパクトなボディに光学3倍ズームを搭載したデジタルカメラです。超薄型ボディやメインスイッチを入れるとすぐに撮影ができる快適さに加え、フルオートシーンセレクターや動画撮影、音声記録、画像の合成、動画の静止画切り出し等豊富な機能を備えています。ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

動画撮影/ボイスレコード............ 75

動画の撮影方法とボイスレコード(音声記録)の方法について説明しています。動画撮影/ボイスレコードの前に一通りお読みください。

再生モード 85

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

(右上に続く)

再生モード

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

(左下からの続き)

(次ページへ続く →)

セットアップモード 120

液晶モニターの明るさやメニュー表示言語、操作音・シャッター音などカメラの細かな設定を変更できます。必要に応じてお読みください。

パソコンと接続する 139

このカメラで撮影した画像をお持ちのパソコンに取り込む方法や、カメラを画像入力装置として使用する方法(PCカメラ)について説明しています。

その他 168

PictBridge対応プリンタで画像を印刷する手順や、その他一般的な注意事項、トラブル時の処置等を記載しています。

（右上に続く）

その他

PictBridge対応プリンタで画像を印刷する手順や、その他一般的な注意事項、トラブル時の処置等を記載しています。

（左下からの続き）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

リチウムイオン電池 NP-200 について

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠ 危険

電池のプラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度：0℃～40℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。

高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～30℃
湿度：45%～85%

⚠ 警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・ACアダプターについて

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

充電器 BC-700 のACコードは、100-120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダで使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプター(セット)をご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き(充電器やACアダプター(セット)の場合は電源プラグをコンセントから抜き)、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し(充電器やACアダプター(セット)の場合は電源プラグをコンセントから抜き)、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

カメラ・充電器・ACアダプターについて（続き）

⚠ 警告

充電器やACアダプター（セット）をご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。

コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やACアダプター（セット）の場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。

使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。

電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

⚠ 注意

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

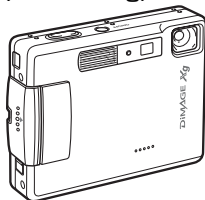
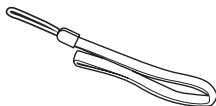
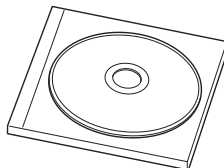
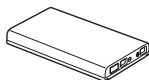
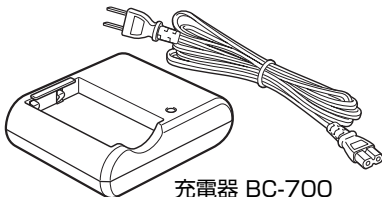
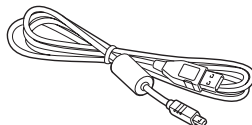
充電器やACアダプター(セット)使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプター(セット)を布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やACアダプター(セット)の電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプター(セット)を、電子式変圧器(海外旅行用の携帯型変圧器など)を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

本使用説明書

DiMAGE Viewer使用説明書
(ディマージュビューアー)

アフターサービスのご案内

コニカミノルタからのお知らせ

保証書

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページからオンラインユーザー登録を行っていただけます。

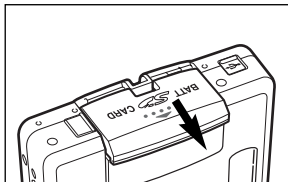
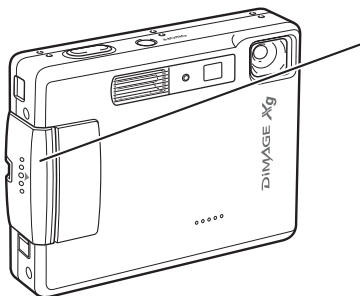
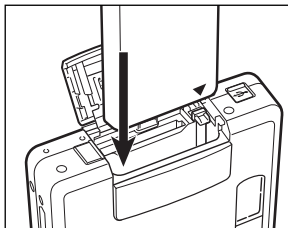
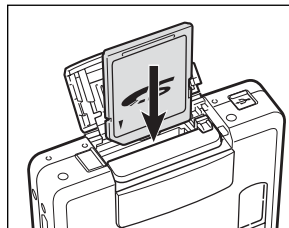
使用後は
リサイクルへ
Li-ion

この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体、または、リサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。

【リサイクル協力店お問い合わせ先】

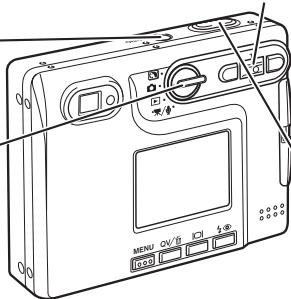
社団法人　電池工業会
TEL　：03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp/

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。→P.22

2. 充電済みの電池を入れます。→P.22

3. カードを入れます。→P.26

撮影する →P.32

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

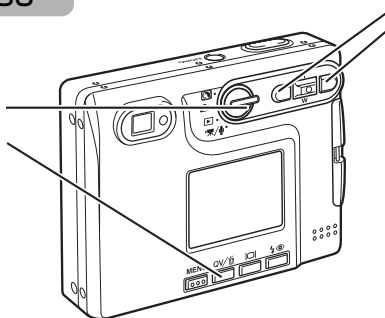
2. モード切り替えダイヤルを またはに合わせます。

3. 上下レバーで撮りたいものの大きさを決めます。

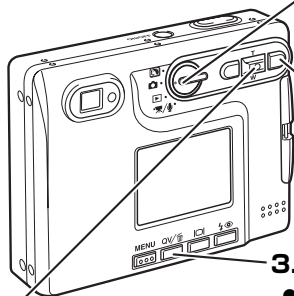
4. シャッターボタンを押して撮影します。

再生する →P.42、86

1. モード切り替えダイヤルを または に合わせ、クイックビュー/消去ボタンを押します。

または、

1. モード切り替えダイヤルを に合わせます。

2. 左右キーで見たい画像を選びます。

消去する →P.43、93

1. モード切り替えダイヤルを または に合わせ、クイックビュー/消去ボタンを押します。または、モード切り替えダイヤルを に合わせます。

- 撮影された最新の画像が表示されます。

2. 左右キーで消去したい画像を選びます。

3. クイックビュー/消去ボタンを押します。

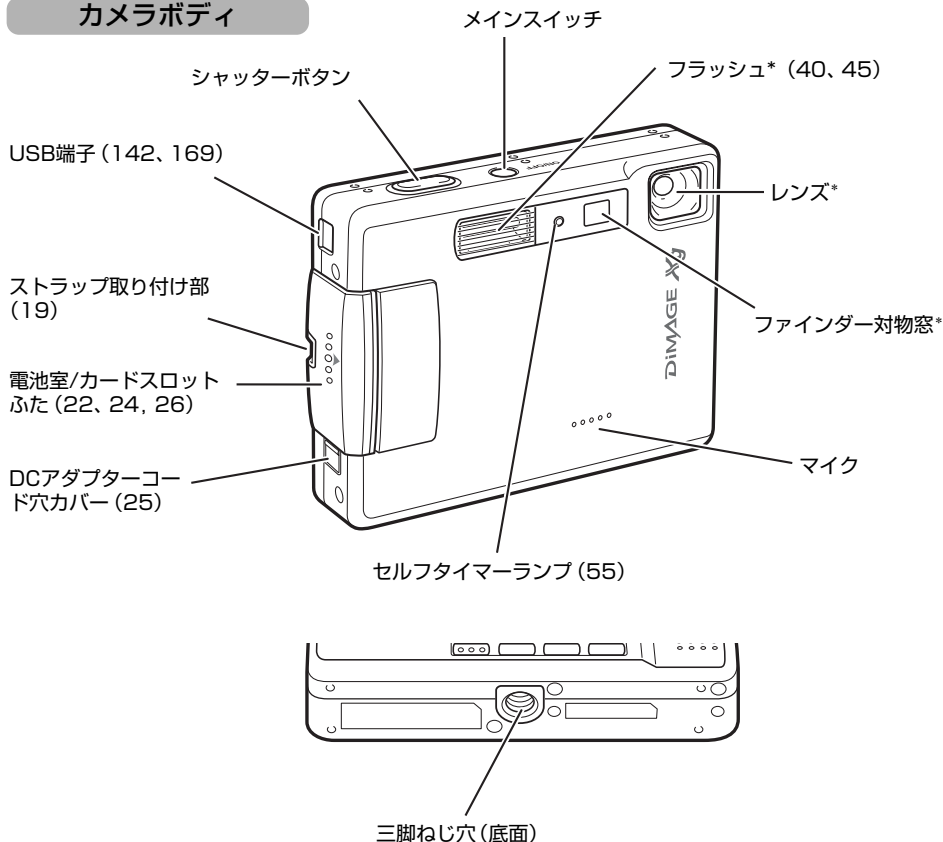
- 下の画面が現れます。
- 消去しない場合は、もう一度クイックビュー/消去ボタンを押すか、左右キーで [いいえ] を選択してください。

4. 上下レバー中央の、実行ボタンを押します。

- 画像が消去されます。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

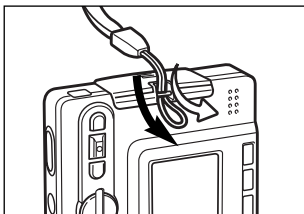
カメラボディ

撮影/アクセスランプ

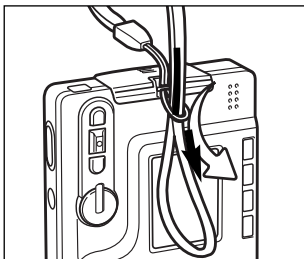
緑色点灯	：撮影できます。
緑色すばやく点滅	：ピントが合いません (P.33、34)。
緑色ゆっくり点滅	：手ぶれに注意してください (P.34)。
赤色点灯	：カメラが起動中です。
赤色すばやく点滅	：フラッシュ充電中 (P.40)、または電池容量がありません (P.23)。
	：シャッターボタンを押した時に点滅すれば、カードに空きがない (P.34)
	：またはカードがロックされている (P.26) か認識できません。
ｵﾚﾝｼﾞ色すばやく点滅	：カードに記録中です。カードを取り出さないでください。

液晶モニター（撮影モード時）
スポット測光サークル（66）
カラーモード（70）
ボイスメモ（71）
デジタルズーム（73）
撮影モード
SEPIA X2.0 2048
画像サイズ（58）
フラッシュモード（45）
AUTO
T STD.
画質（60）
電池容量（23）
ワイドフォーカスフレーム（48）
ホワイトバランス（62）
ズーム表示（32）
撮像感度（64）
ISO100
スポットフォーカスフレーム（48）
露出補正（67）
+0.3
ドライブモード（54）
測光モード（66）
17
撮影残り画像数（30）
手ぶれ警告（34）
写し込み表示（72）
フォーカス表示（34）
白：ピントが合っています
赤：ピントが合っていません
液晶モニター（再生モード時）
拡大再生（89）
再生モード
X2.0 2048
画像サイズ（58）
STD.
画質（60）
電池容量（23）
フォルダ番号（フォルダの通し番号）
16:39
100-0003
ファイル番号（ファイルの通し番号）
撮影日時
2004.01.14 3 [0007/0158]
画像番号/全体の画像数
音声付き画像（92）
（動画画像（90））
メール画像（116）
プロテクト（100）
DPOF（プリント）指定（112）

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

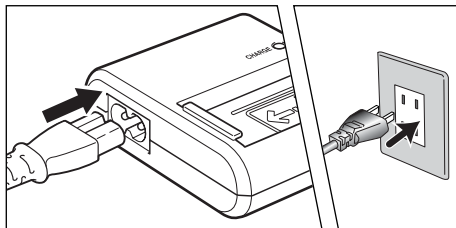
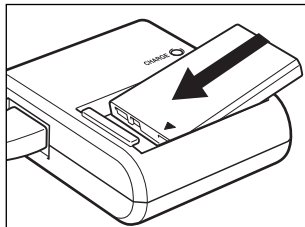
ストラップの取り付け方

1. ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

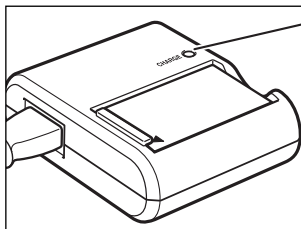
- 先端を細くして通してください。
- 取り付け部に対して垂直に押し込むようにすると通りやすくなります。通らない場合は、先の細い物で先端を引っ張り出してください。

2. 通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池を入れる

このカメラでは、付属の専用電池（リチウムイオン電池NP-200）を使用します。お買い上げの際には電池は充電されていません。付属の充電器BC-700で完全に充電してからお使いください。

● 充電器BC-700に付属のACコードは、100-120ボルト、50/60ヘルツ用です。日本、アメリカ、カナダではそのままお使いになれます。それ以外の地域や国でのご使用については191ページをご覧ください。

電池を充電する

1. 電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池を充電器に取り付けます。

● 接点部分を先に、文字面を上にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約90分です。

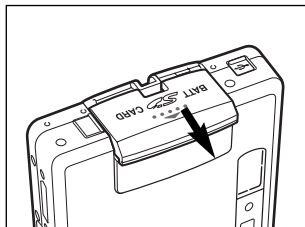
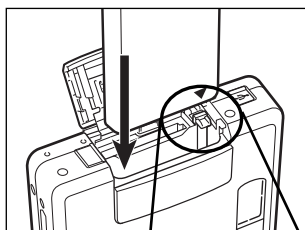
3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

- 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。
- 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回、5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。
- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

電池の追加購入

このカメラの専用電池（リチウムイオン電池 NP-200）を追加で購入される場合は、お買い求めの販売店、もしくは、「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口、または、ホームページにてご購入ください。

電池を入れる

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. 電池ロックレバーを図の方向に押しながら①、接点を先に、文字面をカメラ前面側にして電池を入れます。

- 電池ロックレバーは①の方向にのみ操作してください。反対方向に操作すると、レバーが折れることがあります。

3. 電池室/カードスロットふたを元通り閉めます。

- 最後まで確実に閉めてください。

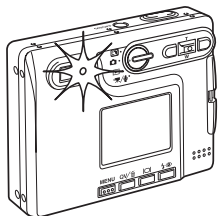
- 長時間電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われ、起動時に液晶モニターに左のメッセージが現れます。左右キーで [はい] を選んで上下レバー中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面になり、日付・時刻を設定できます（→ P.28）。
- [いいえ] を選んで上下レバー中央の実行ボタンを押すと、左のメッセージは消えます。なるべく日付・時刻を設定されることをおすすめします（→ P.29）。

電池容量の確認

メインスイッチを押して電源を入れたり、撮影・再生モードを切り替えたりすると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

電池容量は十分です。（3秒間のみ表示）

電池容量が少なくなりました。（3秒間のみ表示）
これより電池容量が少なくなると節電のためフラッシュ充電中は液晶モニターが消灯します。

（赤色になった場合）電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

赤ランプが3秒間すばやく点滅（左図）、または「電池がなくなりました」というメッセージが現れるときは、電池を充電するか、新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

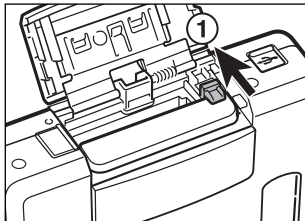
- 何も表示されないときは、電池が充電されているかどうか確認してください。
- 長時間の撮影、再生、パソコンとの接続時、PictBridge対応プリンタと接続して画像を印刷時、PCカメラとして使用時には、別売りのACアダプターセット AC-401 の使用をおすすめします。

オートパワーオフ（操作しないでいると自動的に電源が切れます）

約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的にカメラの電源が切れます（オートパワーオフ）。撮影を再開する場合は、もう一度メインスイッチを押して電源を入れてください。

- オートパワーオフまでの時間（初期設定は3分）を変更することもできます。→ P.134

電池を取り出す

電池を取り出すときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから取り出してください。

1.電池室/カードスロットふたを開けます。

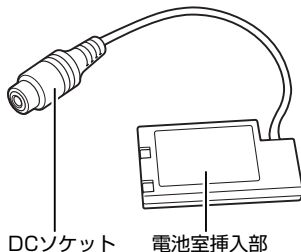
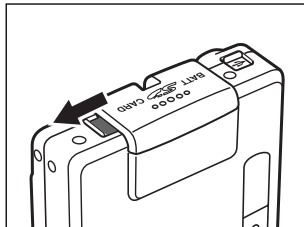
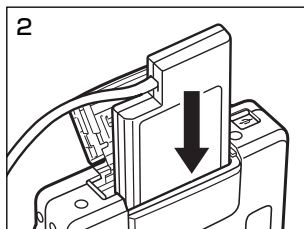
- ふたの開け方は → P.22

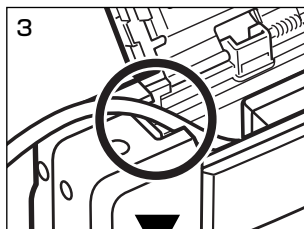
2.電池ロックレバーを図の方向に押して①、電池を取り出します。

- 電池ロックレバーは①の方向にのみ操作してください。反対方向に操作すると、レバーが折れることがあります。

ACアダプターセット（別売り）

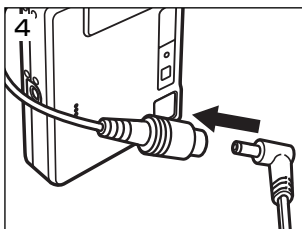
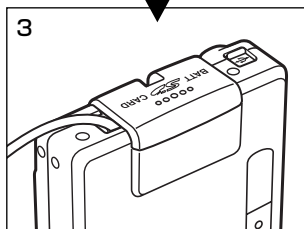
屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプターセット AC-401を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。
ACアダプターセット AC-401は、ACアダプター AC-4 と DCアダプター DA-100との組み合わせ商品です。

【DCアダプター DA-100】

1.カメラの電源を切り、電池室/カードスロットふた横にあるDCアダプターコード穴カバーを開け（下図）、電池室/カードスロットふたを開けます。

2. 22ページ［電池を入れる］と同じ要領で、DCアダプターDA-100の電池室挿入部を電池室に入れます。

- 接点を先に、文字面をカメラ前面側にして、電池室に奥まで入れてください。

3. 操作1.で開けたコード穴にDCアダプターDA-100のコードを収めて、電池室/カードスロットふたを元通り閉めます。

- 左図のようにコードを穴に収めないと、ふたを元通り閉じることができません。

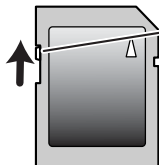
4. DCアダプターDA-100コード先端のDCソケットにACアダプターAC-4のDCプラグを差し込みます。

5. ACアダプターAC-4の電源プラグをコンセントに差し込みます。

取り外し方

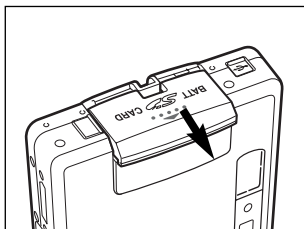
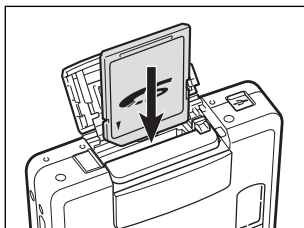
1. カメラの電源を切ります。
2. 電源プラグをコンセントから抜いて、ACアダプターのDCプラグをDCアダプターのDCソケットから取り外します。
3. 電池室/カードスロットふたを開け、前ページ［電池を取り出す］と同じ要領でDCアダプターの電池室挿入部を取り出した後、ふたを元通り閉めて、DCアダプターコード穴カバーを閉じます。

カードを入れる/取り出す

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下、カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いになれます。

ライトプロテクトスイッチ

- SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像等を保護することができます。書き込みする際には、スイッチを上に上げてください。

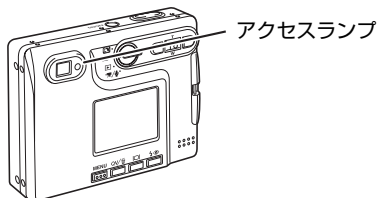
カードを入れるときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから入れてください。

1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面側に向け、ラベル上の▼マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。

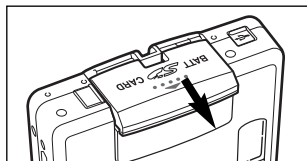
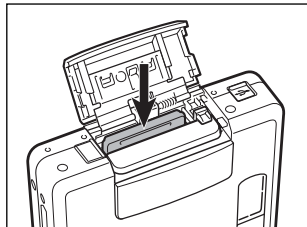
- まっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
- 奥まで入ると、カードはロックされます。

3. 電池室/カードスロットふたを閉めます。

- 閉まらない場合は、下の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

- カードが入ってないときは、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。また、撮影モードでは撮影残り画像数が、動画・ボイスレコードモードでは時間表示が、赤色の ――― になります。
- マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

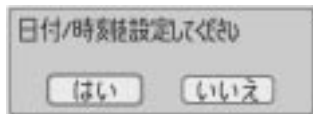
取り出し方

アクセスランプ

オレンジ色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

1. カメラがOFFになっているのを確認後、電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2. カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。

- ロックが外れ、カードが出てきます。

3. カードを取り出し、電池室/カードスロットふたを閉めます。

日時を設定する

日付・時刻設定を促すメッセージが現れた場合

カメラをご購入後初めて使用されるときや、電池を抜いたまま長時間放置した後でカメラを使うときなどは、左図のメッセージが現れます。

1. 左右キーで [はい] を選んで、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 日時設定画面になります。

日時設定画面

日時設定
2003 . 11 . 17
13 : 48
◀▶選択 ▲▼指定 ●完了

2. 左右キーで修正したい項目を選びます。

日時設定
2003 . 12 . 17
13 : 48
◀▶選択 ▲▼指定 ●完了

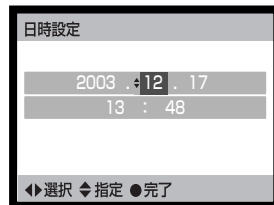
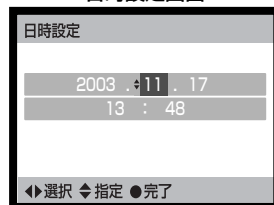
3. 上下レバーで数値を設定(変更)します。

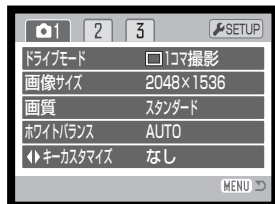
- レバーを押し続けると、数値が早送りされます。

4. 必要なだけ2.～3.の操作を繰り返します。

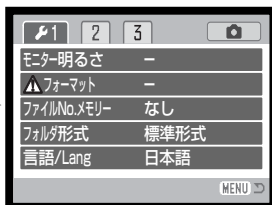
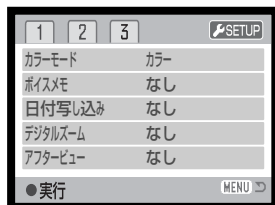
5. 修正が終わったら、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 日付設定が完了し、時計がスタートします。
- 途中でメニューボタンを押すと、日時設定を行なわずに元の画面にもどります。

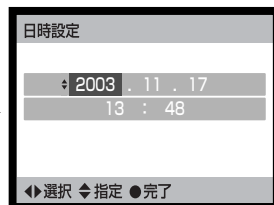
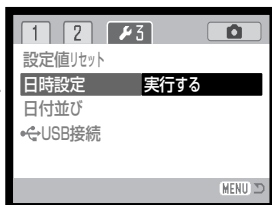
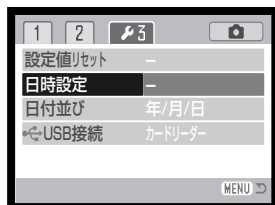
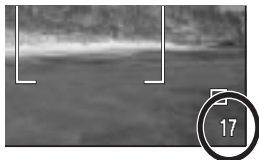
MENU

上記「日付・時刻を設定してください」のメッセージで [いいえ] を選んだときや、日時の変更が必要になった場合は、右ページの手順で日時設定画面を表示させて日時を修正してください。

メニューで日時設定画面を表示させる

1. メニューボタンを押してメニュー画面を表示させせます。モード切り替えダイヤルはどの位置でも構いません。

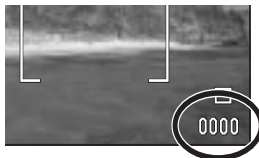
2. 左右キーで画面右上の SETUP を選んで反転させ、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

● セットアップ画面になります。

3. 左右キーで [3] を選び、上下レバーで [日時設定] を選びます。

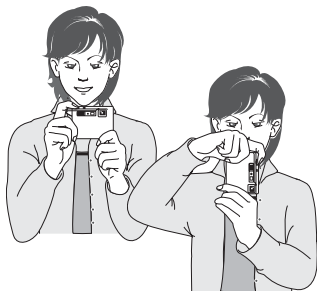
4. 右キーを押して [実行する] が表示されたら、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

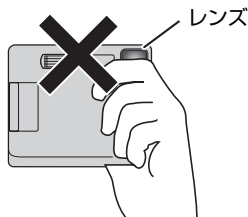
● 日時設定画面になります。

撮影残り画像数

カードを入れて、カメラの電源を入れ撮影モードにすると、液晶モニター右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。付属のカード（16MB）で初期設定（画像サイズ2048×1536、画質スタンダード）で撮影する場合、記録できる画像数は約17枚です。

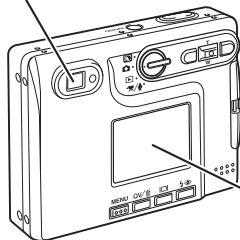
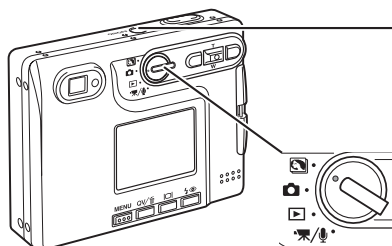
● 異なる容量のカードを使用した場合や、画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行なった場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は → P.61

●「0000」が赤字で表示され、「カードに空きがありません」というメッセージが出たときは、カードがいっぱいです（シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横の赤ランプがすばやく点滅します）。画像サイズまたは画質を変更する、カード内の画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。
画像サイズの変更 → P.58
画質の変更 → P.60
画像の消去 → P.43、95

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

カメラの構え方

手ぶれが起こらないよう、脇を締め、両手でしっかりとカメラを構えて撮影してください。ファインダーをのぞいて撮影すると、手ぶれが起こりにくくなります。

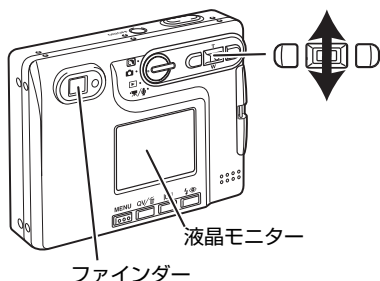
- 縦位置で撮影するときは、フラッシュをレンズより上にしてください。
- ファインダーを使って撮影するときは、液晶モニターをOFFにすると電池の消耗を軽減することができます。→ P.41
- レンズやフラッシュなど、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。
- 動画撮影時（→ P.77）やボイスレコード（→ P.83）、アフレコ（→ P.98）で録音中は、カメラ前面にあるマイクを指などでふさがないようにしてください。

レンズに指をかけないように！
ファインダーを使って撮影すると、レンズに指がかかっていても見えません。失敗の原因となるので注意してください。

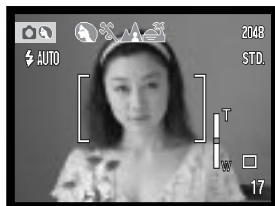
正確に構図を決めるときは

正確な構図を決めるときは、ファインダーではなく液晶モニターのご使用をおすすめします。
詳しくは40ページをお読みください。

撮影する

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

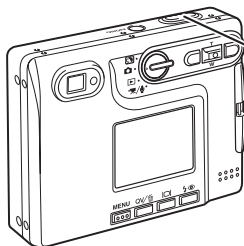
- 電池やフラッシュの充電状態によっては、起動時間が若干長くなったり、操作を受け付けないことがあります。

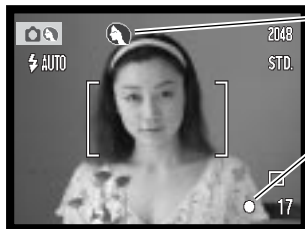
2. モード切り替えダイヤルを （シーンセレクターモード）または （撮影モード）に合わせます。

- シーンセレクターモードでは、カメラがその場面の撮影にふさわしい状態に自動的に設定されます。シーンに合った画像を簡単に撮ることができます。
- 撮影モードでは、メニューで設定を変えて、シーンセレクターモードよりも多様な撮影ができます。

3. 液晶モニターまたはファインダーをのぞいて構図を決め、上下レバーでズームして大きさを決めます。

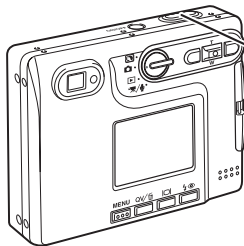
- レバーを上に押すと望遠に、下に押すと広角になります。液晶モニターに表示されるズーム表示がズーム位置の目安をお知らせします（表示上側が望遠、下側が広角）。

シーンセレクターモード

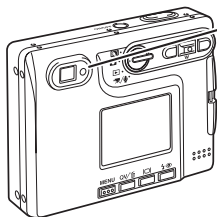
撮影モード

- 液晶モニター内の［　］中のものにピントが合います。
※ピントが合わないときは →P.39
- 撮りたいものから15㎝以上離れてください。

4. シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。

● シーンセレクターモードではフルオートシーンセレクター機能が働いて、撮影シーンが自動で選択されます。→P.34

● シャッターボタンを半押しするとピントが合います。ピントが合うと、液晶モニター右下には白い○が、ファインダー横では緑ランプが点灯します。

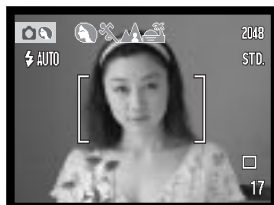
※半押ししたときのその他の表示については →次ページ

5. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

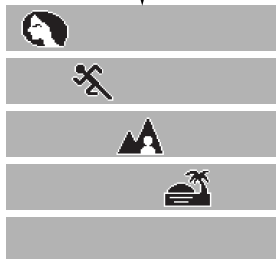
● 液晶モニターがONの状態で、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにしていると、撮影した画像が液晶モニターに表示され確認することができます。シャッターボタンを押し続けなくても、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます(アフタービュー、P.74)。

● 撮影された画像は自動的にカードに記録(書き込み)されます。書き込み中はオレンジ色のアクセスランプが点滅します。**その間はカードを取り出さないでください。**

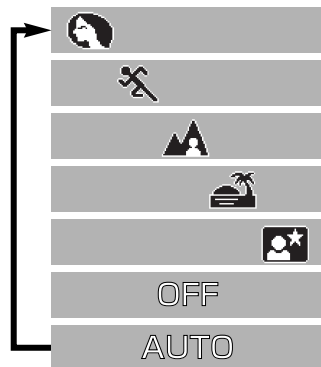
● シャッターボタンを半押しした時に現れる表示の意味は以下の通りです。

ファインダー横 撮影/アクセスランプ	液晶モニター 右下の表示	状況
緑色で点灯	白色の○点灯	ピントが合っています。撮影できます。
緑色ですばやく点滅	赤色の○点灯	ピントが合わない、または、撮りたいものに近づきすぎています（→ P.38）。
緑色でゆっくり点滅		シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
赤色ですばやく点滅	赤色の0000	カードに空きがありません（→ P.30）。

● 撮影終了後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

フルオートシーンセレクター

フルオートシーンセレクター

撮影モードダイヤルがシーンセレクターモード（ ）の位置では、画面の上側に撮影場面を表す絵表示が並びます。シャッターボタンを半押しすると、レンズの焦点距離や被写体までの距離などからカメラが撮影場面を判断し、その場面にふさわしい設定が自動的に行われます（フルオートシーンセレクター）。

● シャッターボタンを半押しすると、カメラが選んだ場面（の絵表示）が液晶モニターに表示されます。
● どの場面にも当てはまらなかった場合は、何も表示されず、通常撮影になります。
● シーンセレクターモードでは、左右キーを使って、撮影者が自分で目的のシーンを選ぶことができます（下記、自分でシーンを選ぶ をご覧ください）。

自分でシーンを選ぶ

撮影モードダイヤルがシーンセレクターモード（ ）の位置では、左右のキーを押すことで、自分で目的の撮影シーンを選べます。左右キーの右を押すと左図の順で、左を押すと左図の逆順でシーンが切り替わります。

● 設定されるシーンの絵表示が液晶モニター中央に大きく表示されます。ボタン操作をやめてしばらくすると、そのシーンに設定されて撮影画面にもどります。

※各モードの説明は、36ページ、37ページをご覧ください。

ポートレート

人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。

● 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいように、またやや遠いところにある被写体をくっきりと描写します。

● フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュを使用しないでください。

※フラッシュ光の届く距離 → P.40

風景

色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。

● フラッシュ発光禁止（→ P.45）で撮影することをおすすめします。

● 被写体が暗いときはシャッター速度が遅くなります。液晶モニターに(手ぶれマーク)が現れたとき（ファインダー横の撮影/アクセスランプが緑色でゆっくり点滅したとき）は、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。

夕景

夕焼けの赤さを美しく描写することができます。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夕景のみの場合は、フラッシュ発光禁止（→ P.45）で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに（手ぶれマーク）が現れたとき（ファインダー横の撮影/アクセスランプが緑色でゆっくり点滅したとき）は、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。

夜景ポートレート・夜景

黒をしっかりと再現し、明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。夜景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夜景のみの場合は、フラッシュ発光禁止（→ P.45）で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに（手ぶれマーク）が現れたとき（ファインダー横の撮影/アクセスランプが緑色でゆっくり点滅したとき）は、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

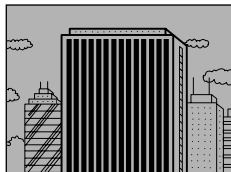
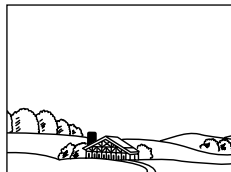
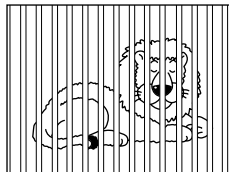
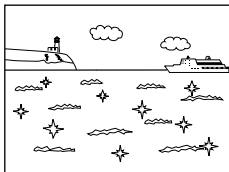
ピント合わせ

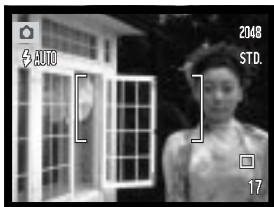
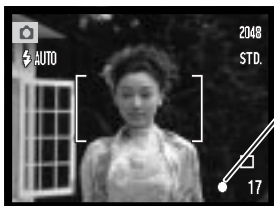
シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、[　]の中のものにピントが合います。ピントが合うと、ファインダー横の緑ランプと、液晶モニターの白色のフォーカス表示○が点灯します。

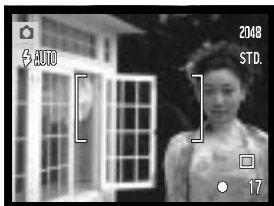
緑ランプがすばやく点滅し、赤い●が点灯したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。
・撮りたいものから15㎝以上離れていますか？
・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

● ピントが合わない場合にそのまま撮影すると、フラッシュが光るときはカメラから2㍍離れた場所に、フラッシュが光らないときはカメラから約20㍍離れた場所にピントが合います。
● 自分の意図する部分に、より厳密にピントを合わせたい場合は、スポットフォーカスフレームをお使いください（→ P.48）。

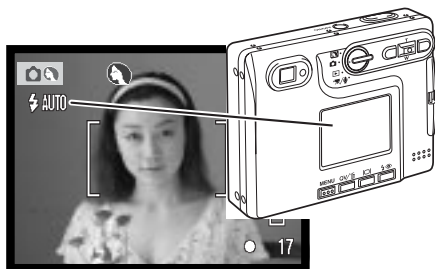
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト(明暗差)を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

[　]の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように明るいものや、
車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

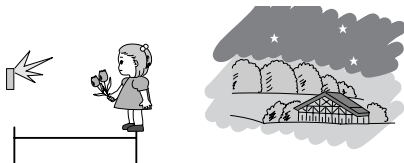
ピントを合わせたいものが画面中央にないとき

ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

●ピントが合っていること（液晶モニター右下の白い○と、ファインダー横の緑ランプ点灯）を確認します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フラッシュ撮影

フラッシュが自動発光 AUTO の場合、必要なときには自動的に発光します。

※フラッシュの光り方を変更するには → P.40

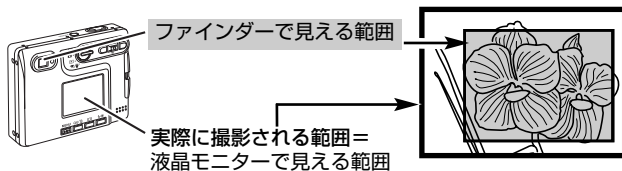
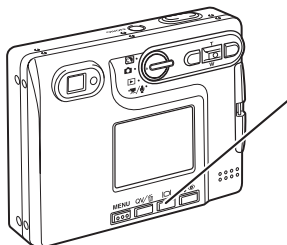
- ファインダー横の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。赤ランプ点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを操作することができます。充電が完了している場合は、半押ししたときに緑ランプが点灯し撮影できます。
- オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光 AUTO (ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合のみ赤目軽減自動発光 AUTO)になります。(→ P.68、69)

広角側：0.15～3.2㍍
望遠側：0.15～2.5㍍

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.2㍍、最望遠側では2.5㍍を目安に撮影してください。(撮像感度AUTO時)

近くのものを撮影するとき

広角側で1㍍、望遠側で3㍍以内のものを撮影するときは、液晶モニターを使って撮影してください。

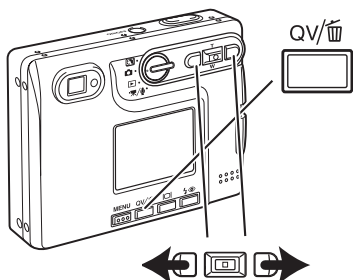
- 近くのものを撮影する場合、レンズを通って実際に記録される画像とファインダーを通して見える画像にずれが生じます。右図のようにファインダーで覗いたときは、左側が広く写る傾向があります。

画面表示の切り替え（撮影モード）

シーンセレクターモード（モード切り替えダイヤル 位置）または、撮影モード（モード切り替えダイヤル 位置）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

液晶モニターON（表示あり）　液晶モニターON（表示なし）　液晶モニターOFF

- 液晶モニターをOFFにすると電池の消耗を減らすことができます。このときはファインダーを使って撮影してください。
- 近くのものを撮影するときは、液晶モニターを使って撮影してください。→ 前ページ
- この使用説明書では、液晶モニターON・表示あり（左端）の状態で説明しています。

※各表示については → P.18

- 液晶モニターON・（表示なし）のときも、電池容量（P.23）と写し込み表示（P.72）は表示されます。
- オートリセットを「あり」にしている場合は、電源を入れ直すと液晶モニターON・表示あり（左端）の状態になります。※それ以外の設定を保持したいときは → P.68、69

撮影した画像を見る（クイックビュー）

1.クイックビュー/消去ボタンを押します。

● 撮影された最新の画像が表示されます。

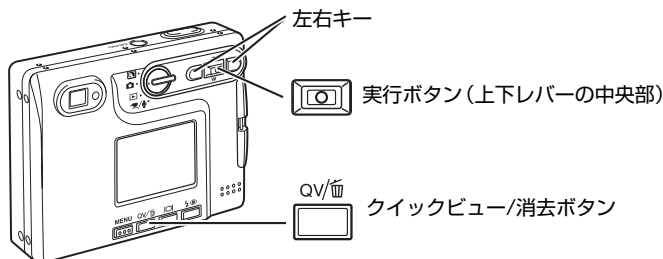
2.左右キーで見たい画像を選びます。

● シャッターボタンを半押しするかメニューボタンを押すと、撮影モードにもどります。
● 画像が記録されていない場合は、「画像がありません」と表示されます。

※再生モードの詳細については → P.86〜

画像を手早く消去する

画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1.クイックビュー/消去ボタンを押します。

2.左右キーで消去したい画像を選びます。

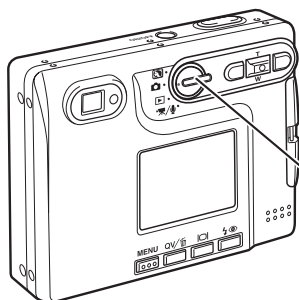
3.もう一度クイックビュー/消去ボタンを押します。

● 右（上側）の画面が現れます。
● 消去しない場合は、左右キーで［いいえ］を選ぶか、再度クイックビュー/消去ボタンを押してください。
● 画像がプロテクト（→ P.100）されていて、消去できない場合は右（下側）の画面が現われます。

4.上下レバー中央の実行ボタンを押します。

● 画像が消去されます。
● 消去後は次の画像が表示（再生）されます。他に消去したい画像があるときは、**2.**〜**4.**の操作を繰り返します。
● シャッターボタンを半押しするかメニューボタンを押すと、撮影モードにもどります。

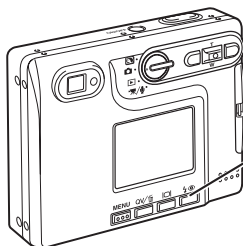
※複数の画像をまとめて消去するときは → P.95

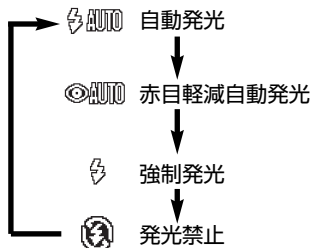
撮影モード（詳細）

モード切り替えダイヤル 位置または 位置でのカメラの詳細な使い方について説明しています。

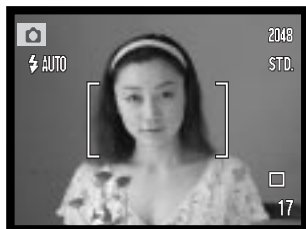
フラッシュの光り方を設定する

フラッシュの光り方を、自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止のうちから選んで設定することができます。

- ファインダー横の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。赤ランプ点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを操作することができます。充電が完了している場合は、半押ししたときに緑ランプが点灯し撮影できます。
- オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光 ⚡AUTO (ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合のみ赤目軽減自動発光 👁AUTO)になります。(→ P.69)

※それ以外の設定を保持したいときは → P.68、69

フラッシュモードボタンを押すたびに、下の順序でフラッシュの光り方が切り替わります。

- 設定されるフラッシュの光り方が液晶モニター中央に大きく表示されます。ボタン操作をやめてしばらくすると、そのフラッシュの光り方に設定されて撮影画面にもどります。

表示	モード	説明
⚡AUTO	自動発光	必要時にはフラッシュが自動的に発光します。→ P.46
👁AUTO	赤目軽減自動発光	フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。 フラッシュは必要時には自動的に発光します。→ P.46
⚡	強制発光	フラッシュは必ず発光します。→ P.47
⊘	発光禁止	フラッシュは発光しません。→ P.47

フラッシュ自動発光

暗い場所や逆光など必要時には自動的にフラッシュが発光します。

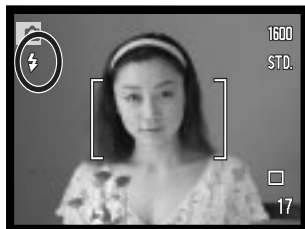
フラッシュ赤目軽減自動発光

フラッシュモードボタン

暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのをやわらげることができます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに AUTO を表示させます。

- シャッターボタンを押すと、数回小光量のフラッシュが発光し、その後本発光とともに撮影されます。
- シャッターボタンを押してから撮影までの間、カメラを動かしたり写される人が動いたりしないよう注意してください。

フラッシュ強制発光

フラッシュモードボタン

フラッシュは必ず発光します。屋外の人物撮影で顔の影をやわらげたい時などにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

フラッシュ発光禁止

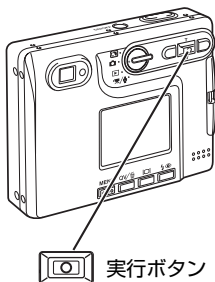
フラッシュモードボタン

フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場所や、風景・夜景などフラッシュ光が届かない被写体を撮影するときにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

● 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に が現れ、ファインダー横の撮影/アクセスランプが緑色でゆっくり点滅してお知らせします）。

ねらいの部分にピントを合わせる(スポットAF)

通常はワイドフォーカスフレームでカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。自分の意図する部分により厳密にピントを合わせたいときは、画面中心部のスポットフォーカスフレームでピントを合わせることもできます。

実行ボタン

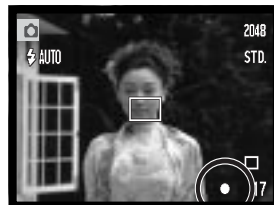
1. シーンセレクターモード( )、または、撮影モード( )で、上下レバー中央の実行ボタンを 約1秒間 押し続けます。

- 液晶モニターON（表示あり）の状態で、液晶モニターにスポットフォーカスフレームが現われます。
- もう一度上下レバー中央の実行ボタンを約1秒間押し続けるとワイドフォーカスフレームにもどります。

スポットフォーカスフレーム

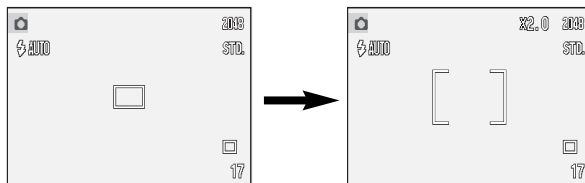
- フォーカスフレームの切り替えは液晶モニターを使って行なってください。液晶モニターOFFのときは切り替えできません。
- 液晶モニターON（表示なし）で切り替え操作した場合は、液晶モニターON（表示あり）に画面が変わり、スポットフォーカスフレームが表示されます。その後、液晶モニターボタンを押して液晶モニターON（表示なし）にもどすと、スポットフォーカスフレームの表示は消えますが、実際のピント合わせはスポットフォーカスフレームで行われます。
- 液晶モニターOFFのときは、液晶モニターON（表示あり）時に設定したフォーカスフレームでピント合わせが行われます。

2. ピントを合わせたいものにスポットフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合うと、液晶モニターの右下の白い○と、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ワイドフォーカスフレームになります。スポットフォーカスフレームの設定を保持したいときは → P.68、69

● 動画撮影時（→ P.77）もこの機能はお使いいただけます。動画撮影前にスポットAFでピントを合わせてから撮影することができます。

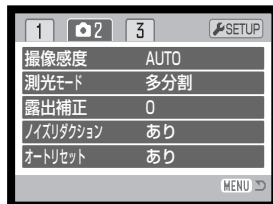
● デジタルズーム時（→ P.73）のスポットフォーカスフレームは下図のように変わります。

デジタルズーム時

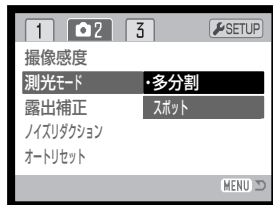
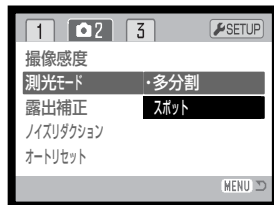
撮影モード時のメニュー設定

モード切り替えダイヤルが、シーンセレクターモード位置（）、または、撮影モード位置（）にあるときにメニューボタンを押すと、52〜53ページに示す設定が可能です。

メニュー設定のしかた

メニューの設定は、上下のレバーと左右のキー、上下レバー中央の実行ボタンで行ないます。

1.左右のキーで、設定したい項目のあるタブ（1〜3）を選びます。

2.上下のレバーで、項目（メニュー画面の左側に表示されているもの）の中から設定したいものを選びます。

3.右のキーを押します。選ぶことのできる内容一覧が現れます。

4. 上下のレバーで、内容一覧から設定したいものを選びます。

5. 上下レバー中央の実行ボタンを押して決定します。

この説明書では、以後、メニュー画面に対しての操作を以下のように表記します。

MENU →[2]→[測光モード]→【右側へ】→[スポット]→ 実行

この表記は、50ページ、51ページの操作手順**1.**～**5.**に対応しています。

①メニューボタンを押す。

②左右キーで[2]を選ぶ　(→ 50ページ 操作 1.)。

③上下レバーで[測光モード]を選ぶ　(→ 50ページ 操作 2.)。

④右キーで右側の項目に移動(選べる設定の一覧が現れる)　(→ 50ページ 操作 3.)。

⑤上下レバーで[スポット]を選ぶ　(→ 51ページ 操作 4.)。

⑥上下レバー中央の[実行ボタン]を押して決定　(→ 51ページ 操作 5.)。

撮影モード時のメニュー設定

📷1	
ドライブモード (→ P.54)	[1コマ撮影]
	セルフタイマー
	連続撮影
	マルチフレームショット
画像サイズ (→ P.58)	[2048×1536]
	1600×1200
	1280×960
	640×480
画質 (→ P.60)	ファイン
	[スタンダード]
	エコノミー
ホワイトバランス※ (→ P.62)	[AUTO]
	昼光
	曇天
	白熱灯
	蛍光灯
左右キーカスタマイズ※ (→ P.63)	露出補正
	ホワイトバランス
	ドライブモード
	撮像感度
	[なし]

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

※ホワイトバランスと左右キーカスタマイズは、シーンセレクターモード時は設定できません。

📷2	
撮像感度※ (→ P.64)	ISO 400
	ISO 200
	ISO 100
	ISO 50
	[AUTO]
測光モード※ (→ P.66)	[多分割]
	スポット
露出補正 (→ P.67)	±2.0(1/3ステップ) [±0.0]
ノイズリダクション (→ P.68)	[あり]
	なし
オートリセット (→ P.68)	[あり]
	なし

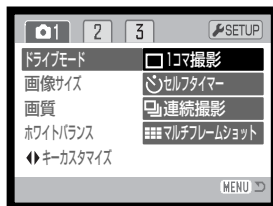
※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

※撮像感度と測光モードは、シーンセレクターモード時は設定できません。

📷3	
カラーモード※（→P.70）	［カラー］
	モノクロ
	セピア
ボイスメモ（→P.71）	あり
	［なし］
日付写し込み（→P.72）	年月日
	月日時刻
	［なし］
デジタルズーム（→P.73）	あり
	［なし］
アフタービュー（→P.74）	あり
	［なし］

※［　　　］で囲んだものは初期設定です。

※カラーモードは、シーンセレクターモード時は設定できません。

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、いろいろな撮影ができます。

1コマ撮影： シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。

セルフタイマー： セルフタイマー撮影ができます。→ P.55

連続撮影： シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。→ P.56

マルチフレームショット： 9回の連続したコマを、9分割した1枚の画像に撮影することができます。→ P.57

● オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、ドライブモードの設定は1コマ撮影になります。 ※それ以外の設定を保持したいときは → P.68、69

● 左右キーカスタマイズでドライブモードを設定すると、左右キーを押すだけでドライブモード（の設定）を切り替えることができます。 ※詳しくは → P.63

□ 1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影です。

MENU →［1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［1コマ撮影］→ 実行→ MENU

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

MENU →［1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［セルフタイマー］→ 実行→ MENU

1.前ページの手順で、セルフタイマーを選びます。

2.シャッターボタンを半押しし、被写体にピントが合っていることを確認します。

3.シャッターボタンを押し込みます。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中はランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます (→ P.131)。

- セルフタイマー設定時は液晶モニター右下に⏲が表示されます。

- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンを押すか、上下レバーを動かしてください。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。毎秒約1.5コマの連続撮影ができます (画像サイズ 2048×1536、日付写し込み「なし」設定時)。

MENU →[📷1]→[ドライブモード]→【右側へ】→[連続撮影]→ 実行→ MENU

(次ページに続く ☞)

（☞ 前ページからの続き）

1. 前ページの手順で、連続撮影を選びます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● 連続撮影設定時は液晶モニター右下に ⧉ が表示されます。

● フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
● 日付写し込みを「あり」に設定している場合は、連続撮影の速度は遅くなります。
● 連続撮影できる枚数には、カメラのメモリ容量による上限があります（以下参照）。これらの値は、画像サイズや画質、被写体によって異なりますので、あくまで目安とお考えください。

画質	画像サイズ			
	2048×1536	1600×1200	1280×960	640×480
エコノミー	約19枚	約30枚	約42枚	約94枚
スタンダード	約10枚	約16枚	約24枚	約67枚
ファイン	約5枚	約8枚	約13枚	約42枚

マルチフレームショット

9回の連続したコマを、9分割した1枚の画像に撮影することができます。人の表情の変化などを撮影して楽しむことができます。

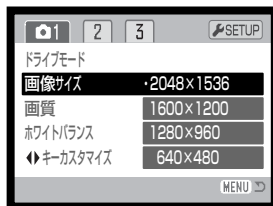
MENU →［1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［マルチフレームショット］→ 実行→ MENU

1.上記の手順で、マルチフレームショットを選びます。

2.シャッターボタンを押して撮影します。

● マルチフレームショット設定時は液晶モニター右下に が表示されます。

● 毎秒2.1コマで、計9コマ撮影されます。
● フラッシュは自動的に発光禁止になります。
● 手ぶれの少ない、適正な露出のマルチフレームショットを撮影するには、明るいところでの撮影をおすすめします。
● マルチフレームショットでは、シャッター音を「音1」や「音2」に設定していても、シャッター音はなりません。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。左図の4通りの中から選ぶことができます。

MENU →［1］→［画像サイズ］→【右側へ】→［*希望のサイズ*］→ 実行→ MENU

● 液晶モニター右上に、現在設定している画像サイズが表示されます。

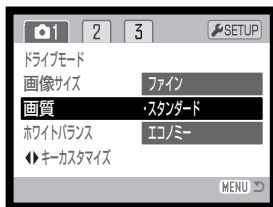
デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2048×1536画素の場合、画像は横に2048、縦に1536に分割され、その1点1点(画素)にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数(記録画素数)を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。

画像をプリント(印刷)する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリント(印刷)できますが、1枚当たりのファイルサイズ(データ量)が大きくなりますので、カードに記録できる(撮影できる)枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に合わせてお選びください。

このカメラでは、画像サイズを以下の4通りから選ぶことができます。

2048 × 1536 (FULL)	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする (*1) 場合におすすめします。約310万画素の画像が撮影できます。 (*1) 2L版(178㎜×127㎜)～ A4(297㎜×210㎜) 程度
1600 × 1200 (UXGA)	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする (*2) 場合におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 (*2) L版(127㎜×89㎜)～ A5(210㎜×148㎜) 程度
1280 × 960 (SXGA)	枚数を多く撮るときに便利です。約120万画素の画像が撮影されます。
640 × 480 (VGA)	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi～300dpi の場合を指しています。

画質

画像の圧縮率を指定することができます。左図の3通りの中から選ぶことができます。

MENU → [1] → [画質] → 【右側へ】 → [*希望の画質*] → 実行 → **MENU**

● 液晶モニター右上に、現在設定している画質が表示されます。
ファイン → FINE、スタンダード → STD.、エコノミー → ECON.と表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
エコノミー → スタンダード → ファイン の順に高画質になりますが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。

<table>
<tr><th>表示</th><th>ファイル形式</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>ファイン
（FINE）</td><td>JPEG
（圧縮率 小）</td><td rowspan="3">画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。
JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画像を撮影後にパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行う場合、画質の設定は慎重に行ってください。一般的な目安は以下のとおりです。
プリント（印刷）する場合 → スタンダード、ファイン
画像を加工する場合 → ファイン
Eメールに添付する場合など → エコノミー</td></tr>
<tr><td>スタンダード
（STD.）</td><td>JPEG
（圧縮率 中）</td></tr>
<tr><td>エコノミー
（ECON.）</td><td>JPEG
（圧縮率 大）</td></tr>
</table>

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

- 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。
- 同じ容量のカードでも、メーカーや種類、撮影条件が異なると、撮影枚数など数値が異なることがあります。

ファイルサイズ

	2048×1536	1600×1200	1280×960	640×480
エコノミー	約440KB	約290KB	約210KB	約90KB
スタンダード	約820KB	約520KB	約360KB	約130KB
ファイン	約1.6MB	約990KB	約660KB	約210KB
動画(30fps)	約670KB/秒(320×240) / 約160KB/秒(160×120)			
動画(15fps)	約340KB/秒(320×240) / 約85KB/秒(160×120)			
音声*	約8KB/秒			

*ボイスレコード、ボイスメモ、アフレコ

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

	2048×1536	1600×1200	1280×960	640×480
エコノミー	約32枚	約47枚	約69枚	約150枚
スタンダード	約17枚	約27枚	約39枚	約100枚
ファイン	約9枚	約14枚	約22枚	約69枚
動画(30fps)	約21秒(320×240) / 約1分22秒(160×120)			
動画(15fps)	約41秒(320×240) / 約2分30秒(160×120)			
ボイスレコード	約30分51秒			

ホワイトバランス（シーンセレクターモードでは設定できません）

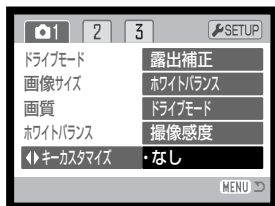
光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

MENU →［ 1］→［ホワイトバランス］→【右側へ】→［希望のWB］→ 実行→ MENU

- AUTO（オート）以外を選択すると、液晶モニターに該当するマークが以下の通り表示されます。
  - 昼光（晴れた明るい屋外）
  - 曇天（曇った屋外）
  - 白熱灯（タングステン光）
  - 蛍光灯

- 複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。
- オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ホワイトバランスの設定はAUTOになります。
- 左右キーカスタマイズでホワイトバランスを設定すると、左右キーを押すだけでホワイトバランスの設定を切り替えることができます。詳しくは → P.63

※AUTO以外の設定を保持したいときは → P.68、69

左右キーカスタマイズ（シーンセレクターモードでは設定できません）

撮影時によく使う4つの機能の内、いずれか1つの設定変更を左右のキーに割り当てることができます。左右のキーを押すだけで設定を変更できますので、メニュー画面で設定する手間が省けます。

MENU→[1]→[キーカスタマイズ]→【右側へ】→[設定変更を割り当てたい機能]→実行→MENU

機能	説明	ページ
露出補正	右キーを押すたびに「＋」側に補正され、左キーを押すたびに「－」側に補正されます。（±2.0、1/3ステップ）	67
ホワイトバランス	左右キーを押すたびにホワイトバランスの設定が切り替わります。	62
ドライブモード	左右キーを押すたびにドライブモードの設定が切り替わります。	54
撮像感度	左右キーを押すたびに撮像感度の設定が切り替わります。	64
なし	初期設定では、左右キーには機能は割り当てられていません。	—

- 左右キーで各項目の設定を行うと、**設定される状態が液晶モニター中央にしばらく表示された後、撮影画面にもどります。**シャッターボタンを半押しするか、または、上下レバー中央の実行ボタンを押すと、すぐに撮影画面にもどります。
- オートリセットを「あり」に設定している場合は、左右キーカスタマイズで設定した項目は、電源を入れ直すと以下の状態にリセットされます。

露出補正　：　0.0
ホワイトバランス　：　AUTO
ドライブモード　：　□（1コマ撮影）
撮像感度　：　AUTO

撮像感度（シーンセレクターモードでは設定できません）

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。AUTO（オート）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには感度を上げる（＝数値を大きくする）と有効ですが、その分画像は粗くなります。

MENU →［2］→［撮像感度］→【右側へ】→［*希望の撮像感度*］→ 実行→ **MENU**

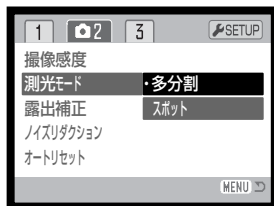
- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。初期設定はオート（AUTO）です。
  オート（AUTO）、ISO 400、ISO 200、ISO 100、ISO 50
- オート（AUTO）の場合、感度はISO50〜160の範囲で自動設定されます。撮影中の表示はありません。
- オート（AUTO）以外の撮像感度を設定すると、液晶モニターの画面左側にISOと選んだ値が表示されます（下図）。

- オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、撮像感度の設定はAUTOになります。AUTO以外の設定を保持したいときは → P.68、69
- 左右キーカスタマイズで撮像感度を設定すると、左右キーを押すだけで撮像感度の設定を切り替えることができます。詳しくは → P.63

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

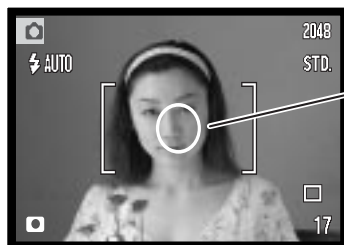
撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。
感度をあげるとフラッシュ調光距離は長くなりますが、画像が粗くなります。

撮像感度	フラッシュ調光距離	
	広角側	望遠側
オート（AUTO）	0.15～3.2メートル	0.15～2.5メートル
ISO 50	0.15～1.8メートル	0.15～1.4メートル
ISO 100	0.15～2.5メートル	0.15～2.0メートル
ISO 200	0.15～3.6メートル	0.15～2.8メートル
ISO 400	0.15～5.1メートル	0.15～4.0メートル

測光モード（シーンセレクターモードでは設定できません）

測光モード（画面のどの部分の明るさを測るか）を、多分割測光とスポット測光とで切り替えることができます。

多分割測光： 画面を細かく分割して測光します。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確にとらえます。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

スポット測光： 画面中央にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみの明るさを測ります。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定部分だけを測光するのに適しています。

MENU →［2］→［測光モード］→【右側へ】→［*希望の測光モード*］→ 実行→ **MENU**

スポット測光サークル

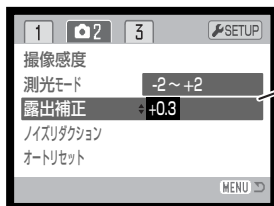
● スポット測光を選んだときは、液晶モニターの画面左下に が表示されます。

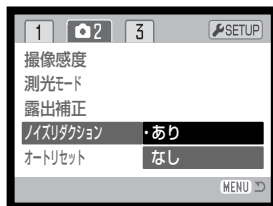
● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、測光モードは多分割になります。設定を保持したいときは → P.68、69

画像を明るくする/暗くする（露出補正）

画像全体を明るくしたり暗くしたりします。±2.0段の範囲内で1/3段刻みで補正することができます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

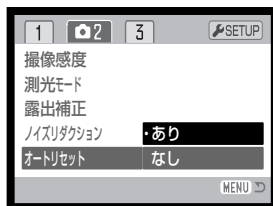
メニュー画面で設定する

MENU →［2］→［露出補正］→【右側へ】→［上下レバーで数値設定］→ 実行 → MENU

- 液晶モニター左側に、設定した露出補正値が表示されます。
- 露出補正を解除するときは、上記の同じ操作で 0 を設定してください。
- 液晶モニターOFFの時は、メニューボタンを押すと上記メニュー画面が現れます。実行ボタンで補正値決定後メニューボタンを押すと、液晶モニターは再びOFFになります。
- オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すと、露出補正値は 0 になります。
- 左右キーカスタマイズで露出補正を設定すると、左右キーを押すだけで露出補正値を設定することができます。詳しくは → P.63

ノイズリダクション（ノイズ軽減処理）

このカメラでは、シャッター速度が1秒以上となるような長時間露光の場合は、スローシャッターノイズ軽減機能が働いて、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズを軽減します。
この機能の あり←→なし を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

MENU →［2］→［ノイズリダクション］→【右側へ】→［あり または なし］→ 実行→ **MENU**

● ノイズリダクションが「あり」の状態でシャッター速度が1秒以上となるような（長時間露光の）撮影を行うと、撮影終了に続けてノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。処理中は、液晶モニターが消灯して**「ノイズリダクション実行中」**のメッセージが現れます。**この間は次の撮影はできません。**

オートリセット

オートリセットを「あり」にすると、メインスイッチを入れ直すたびに右ページの設定項目が初期設定に自動的にもどります。「なし」にすると、メインスイッチを入れ直しても前回に使用した設定が保持されます。

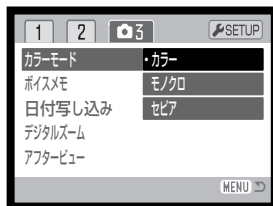
MENU →［2］→［オートリセット］→【右側へ】→［あり または なし］→ 実行→ **MENU**

状態の変わる項目	初期設定(この状態にもどります)
シーンセレクター(P.34)	フルオートシーンセレクター
画面表示の切り替え(P.41)	液晶モニターON(表示あり)
フラッシュモード*1(P.45)	自動発光 または 赤目軽減自動発光
フォーカスフレーム(P.48)	ワイドフォーカスフレーム
ドライブモード(P.54)	1コマ撮影
ホワイトバランス(P.62)	AUTO
撮像感度(P.64)	AUTO
測光モード(P.66)	多分割
露出補正*2(P.67)	±0.0
カラーモード(P.70)	カラー

*1 フラッシュモードを前回 赤目軽減自動発光 に設定していた場合は、オートリセット「あり」で電源を入れ直すと、自動発光ではなく赤目軽減自動発光になります。その他のフラッシュモードの場合は自動発光になります。

*2 オートリセット「あり」に設定すると、「なし」のときに設定した露出補正値は解除されます。

● お買い上げ時は、オートリセット「あり」に設定されています。電源を入れ直したときに前回設定した状態でそのまま撮影したい場合は、オートリセットを「なし」にしてください。

カラーモード（シーンセレクターモードでは設定できません）

モノクロ（白黒）やセピア調の画像を撮影することができます。

カラー　：通常の標準カラー画像が撮影できます。

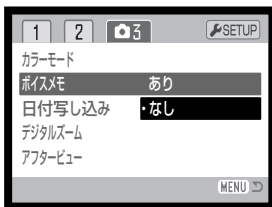
モノクロ　：白黒画像が撮影できます。

セピア　：やや色あせた、全体に黒茶色（セピア調）の画像が撮影できます。

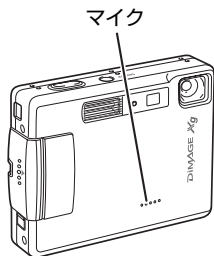
MENU →［3］→［カラーモード］→【右側へ】→［*希望のカラーモード*］→ 実行 → MENU

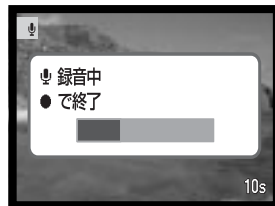
● ［カラー］は、メニュー画面には表示されますが、撮影中の表示はありません。
● ［モノクロ］［セピア］を選んだときは、液晶モニターの画面上部にそれぞれの絵記号が表示されます。

● 選んだカラーモードに応じて、背景の画像の色調も変わります。
● モノクロやセピアを選んでも、画像ファイルサイズはカラーと同じです。
● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとカラーモードは［カラー］になります。

ボイスメモ

撮影直後に、最大15秒間、撮影した画像のコメント等を音声で入れることができます（ボイスメモ）。

● ボイスメモを「あり」に設定すると、液晶モニター左上に音声録音を表す 🎙 が表示されます。

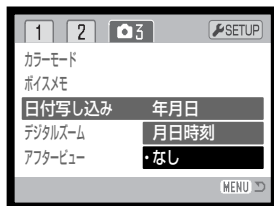
操作方法

1. 撮影します。

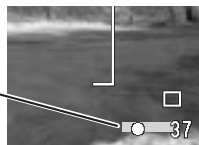
● 撮影直後に右の画面が現れ、さらに2秒経つと録音が始まります（アフタービュー（→ P.74）が「あり」の場合は、撮影された画像を2秒間表示した後に録音が始まります）。

2. マイクに向かって話します。

● 残りの秒数を画面右下に表示します。
● マイクの部分を指などでふさがないようにしてください。

3. 録音を終了するときは実行ボタンを押します。

● ボイスメモは最大15秒間録音できます。録音開始から15秒経過すると自動的に録音は終了します。
● マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
● 連続撮影の場合は、最後のコマにだけボイスメモを付けることができます。

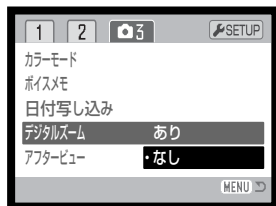
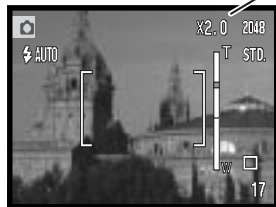
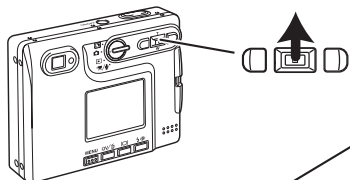
日付写し込み

撮影の「年月日」または「月日時刻」を、画像の右下に入れることができます。

日付写し込みを「年月日」または「月日時刻」に設定したときは、液晶モニター画面右下に黄色のバーが表示されます。

●実際の写し込み位置は右のようになります。

●日付写し込みを「なし」に設定していても、撮影時の年月日・時刻は、画像とは別情報として記録されており、再生時には液晶モニター画面左下に表示されます。

※年月日の並びを変更するときは → P. 137

●日付写し込みを「年月日」「月日時刻」に設定していると、連続撮影の速度が遅くなります。

デジタルズーム

通常のズーム（光学ズーム）で最望遠側にした後、デジタルズームにより、さらに4倍まで画像を拡大することができます。

MENU →［ 3］→［デジタルズーム］→【右側へ】→［あり または なし］
→ 実行→ MENU

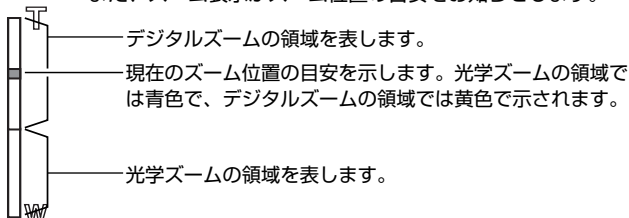
操作方法

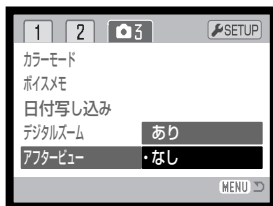
1. 上記の操作で、デジタルズーム［あり］を設定します。

2. 上下レバーの上側で望遠側にズームさせます。

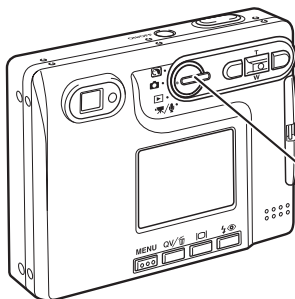
3. そのままズームを続けると自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍まで拡大されます。

● 液晶モニター右上に、現在のデジタルズームでの倍率が表示されます。0.1倍ごとに4.0倍まで拡大することができます。また、ズーム表示がズーム位置の目安をお知らせします。

T
デジタルズームの領域を表します。
現在のズーム位置の目安を示します。光学ズームの領域では青色で、デジタルズームの領域では黄色で示されます。
光学ズームの領域を表します。
W

● デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。
● 液晶モニターはONにしてください。OFFだとデジタルズームはできません。デジタルズームの拡大はファインダーで確認することはできませんので、液晶モニターを見ながら撮影してください。
● デジタルズーム後に液晶モニターをOFFにすると、デジタルズームなしの光学ズームの最望遠位置で撮影されます。
● 動画撮影（→ P.77）の場合も、同様のデジタルズームが可能です。

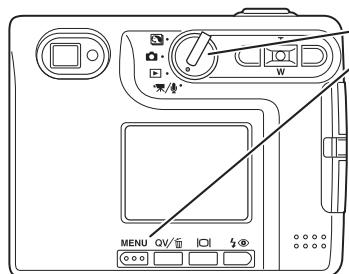
アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます（アフタービュー［あり］）。

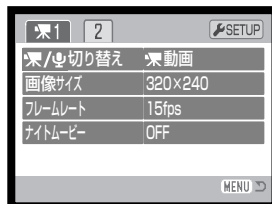
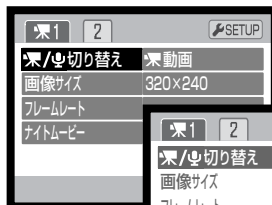
- 連続撮影の場合は、最後のコマのみが表示されます。
- アフタービューで画像表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。
- 液晶モニターOFFの状態でアフタービューを「あり」にすると、撮影画像を2秒間表示した後に液晶モニターが消灯します。
- アフタービュー「なし」でも、液晶モニターON状態ならば、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにすると、押し込んでいる間 撮影した画像が表示されます。

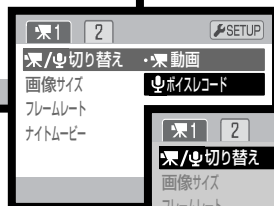
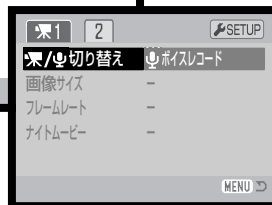
動画撮影 / ボイスレコード

カメラのモード切り替えダイヤルを 🎥/🎙 位置にすると、動画撮影/ボイスレコード(音声記録)モードになります。この章では、この動画撮影とボイスレコードについて説明しています。

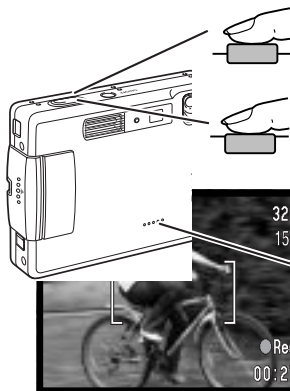
このカメラは、動画はカードの容量、または、電池の容量がなくなるまで連続しての撮影が可能です。ボイスレコード(音声記録)は最長連続180分の記録ができます。長時間連続して動画撮影/音声記録される場合は、別売りのACアダプターセットAC-401のご使用をおすすめします。

動画/ボイスレコード

動画とボイスレコードの切り替え

1. モード切り替えダイヤル動画撮影/ボイスレコードモード位置（/）で、メニューボタンを押します。

● 液晶モニターに動画/ボイスレコードモードメニュー画面が表示されます。

2. 上下レバーで［/切り替え］を選びます。

3. 右キーで右側に移動します。

4. 上下レバーで［動画］か［ボイスレコード］かを選びます。

5. 上下レバー中央の実行ボタンを押して決定します。

動画

カードの容量がなくなるまで、連続して動画撮影を行なうことができます。音声も同時に記録されます。

1. 前ページに記載の手順で、動画を選びます。

- メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニター左上には動画の、 右上には動画の画像サイズとフレームレート、右下には動画の（撮影可能な）残り秒数が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しします。

- ピントが 合うと、液晶モニター画面右下に○（フォーカス表示）が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで、動画撮影を開始します。

- 撮影中は Rec が表示され、右下には撮影開始からの経過時間が表示されます。カードの容量が残り少なくなるなど撮影可能時間が10秒以下になると、赤色で残り秒数表示に変わります。
- カメラ前面のマイクを指やストラップ等でふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

4. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

- 残り秒数が 0 になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

ズームについて

- 動画撮影開始前は、静止画撮影と同じ通常のズーム(光学ズーム)とデジタルズームの両方が可能です。動画撮影中はデジタルズームが可能です。ただし、フレームレートが30fpsの場合はできません。

ピントについて

- ピント位置は動画撮影開始時に固定されます。動画撮影中はオートフォーカスは動作しません。

フォーカスフレームについて

- 動画撮影開始前は、上下レバー中央の実行ボタンを約1秒間押し続けることで、ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームとを切り替えできます。動画撮影中はフォーカスフレームの切り替えはできません。

液晶モニター表示について

- 動画撮影開始前は、液晶モニターボタンを押すたびに、[液晶モニターON(表示あり)]と[液晶モニターON(表示なし)]を切り替えできます。液晶モニターをOFF(消灯させる)にはできません。

その他の動画撮影前に可能な設定

- 露出補正(左右キー、および、動画撮影メニューで設定可能)
- 画像サイズ(→ P.80)、フレームレート(→ P.80)、ナイトムービー機能のON/OFF(→ P.81)、ホワイトバランス(→ P.82)、カラーモード(→ P.82)(動画撮影メニューで設定可能)

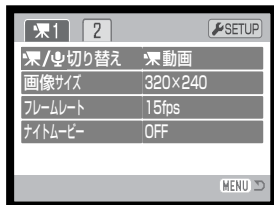
その他の動画撮影時に固定される設定

- 動画撮影時には、以下の機能は固定されます。変更はできません。
  測光モード(多分割)、撮像感度(オート)、ファイル形式(Motion JPEG / MOV)
- 以下の機能は、動画撮影時には使用できません。
  フラッシュ、シーンセレクター、日付写し込み、液晶モニター消灯(OFF)

- 撮影された動画は、SDメモリーカード内にMotion JPEG(MOV)ファイルとして保存されます。
- 電池の容量が少ないとき(液晶モニターに赤色の□が点灯している場合)は、動画撮影はできません。(『電池が少ないので動画撮影できません』というメッセージが表示されます。)
- 暗い場所で撮影する場合に、画面を見やすくすることができます(ナイトムービー機能 → P.81)。

> カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。**特に、画像サイズ320×240で、かつ、フレームレート30fpsの設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。**

動画モード時のメニュー（ボイスレコードモード時はメニューは表示されません）

動画モード時にメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。操作方法は撮影モード時のメニュー設定と同じです。→ P.50、51

1	
/切り替え（→ P.76）	[動画]
	ボイスレコード
画像サイズ（→ P.80）	[320×240]
	160×120
フレームレート（→ P.80）	30 fps
	[15 fps]
ナイトムービー（→ P.81）	ON
	[OFF]

2	
ホワイトバランス（→ P.82）	[AUTO]
	昼光
	曇天
	白熱灯
	蛍光灯
露出補正（→ P.82）	±2.0（1/3ステップ）[±0.0]
カラーモード（→ P.82）	[カラー]
	モノクロ
	セピア

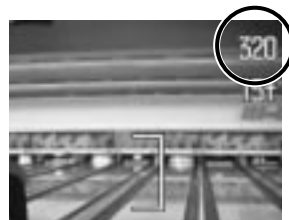
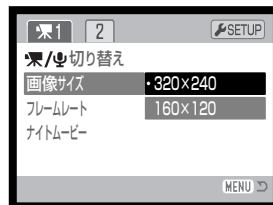
※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

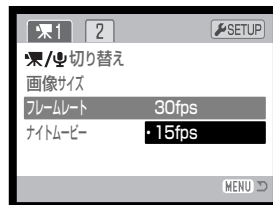
（次ページへ続く →）

画像サイズ

動画の大きさを指定することができます。2通りの中から選ぶことができます。

MENU →[1]→[画像サイズ]→【右側へ】→[*希望のサイズ*]→実行→ MENU

● 画面右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。たとえば、320×240を選んだ場合は、320と表示されます。

フレームレート

動画は、1枚1枚の静止画像を連続して再生することで、動きのある絵になっています。この静止画像の1枚1枚を「フレーム」といいます。フレームレートは、1秒当たりに取り込む(撮影する)フレーム数のことで、2通りの中から選ぶことができます。
フレームレートが大きくなるほど、より動きの滑らかな動画になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

fps = Frame per Secondの略。1秒当たりのフレーム数のこと。

MENU →［🎥1］→［フレームレート］→【右側へ】→［希望のフレームレート］→ 実行→ MENU

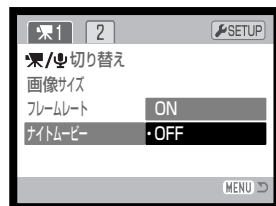
● 画面右上に、選んだフレームレートが表示されます。
● 30 fpsを選んだときは、動画撮影中のデジタルズーム操作ができません。

画像サイズ 320×240 で、かつ、フレームレート30fpsの設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。

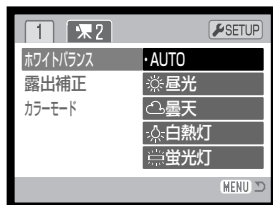
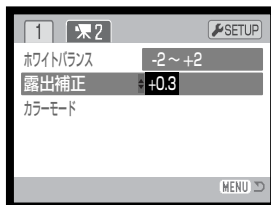
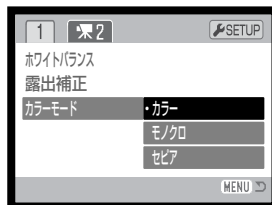
動画
ボイスレコード

ナイトムービー

暗い場所で動画撮影を行なうと、被写体が暗く見にくくなります。ナイトムービーを［ON］にして感度を上げると、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

MENU →［🎥1］→［ナイトムービー］→【右側へ】→［ONまたはOFF］→ 実行→ MENU

● ナイトムービーをONにすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

ホワイトバランス

1 2 SETUP
ホワイトバランス ・AUTO
露出補正 昼光
カラーモード 曇天
白熱灯
蛍光灯
MENU

露出補正

カラーモード

MENU → [2] → [ホワイトバランス] → 【右側へ】 → [*希望のWB*] → 実行 → **MENU**

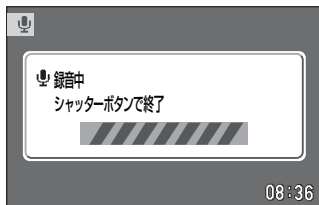
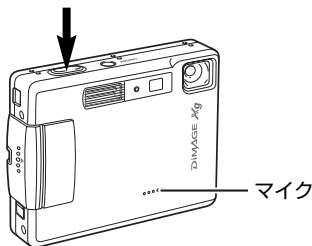
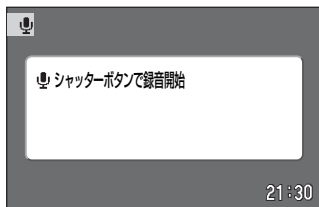
MENU → [2] → [露出補正] → 【右側へ】 → [*上下レバーで数値設定*] → 実行 → **MENU**

MENU → [2] → [カラーモード] → 【右側へ】 → [*希望のカラーモード*] → 実行 → **MENU**

動画のホワイトバランス、露出補正値、カラーモードを設定できます。
設定のしかたや各設定での選択肢は、撮影モード時のメニューと同じです。
（ホワイトバランス → P.62　　露出補正 → P.67　　カラーモード → P.70）

● ホワイトバランス、露出補正(値)、カラーモードの各設定は、撮影モード( )時のメニュー設定と共通です。どちらかのメニュー画面での設定と同じ設定が、もう一方のメニュー画面に現れます。

ボイスレコード

連続最長180分までの、音声のみの録音ができます。

1.76ページに記載の手順で、ボイスレコードを選びます。

● メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニターには左の「録音開始画面」が表示されます。液晶モニター左上には が、右下には録音可能な残り時間（"時：分：秒"、60分未満の場合は "分：秒"）が表示されます。

2.シャッターボタンを押して録音を開始します。

● 録音を開始すると、左図のようなバーグラフが表示され、画面右下には録音開始からの経過時間が表示されます。連続録音時間が180分に近づくなどで録音可能な残り時間時間が10秒以下になると、赤色で残り秒数表示に変わります。

● 声を録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

● マイクの部分を指などでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

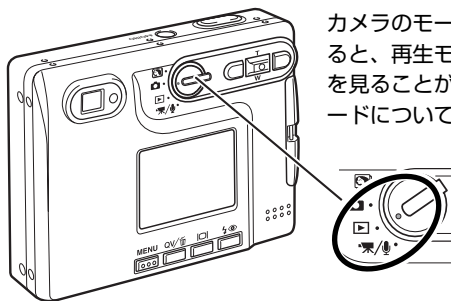
（次ページへ続く →）

3.録音を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

- 付属の16MBのカードには、合計約30分51秒間の音声を記録することができます。

※音声の再生について → P.91

- 録音中に液晶モニターボタンを押すと液晶モニターをOFFにできます(再度押すと液晶モニターONになります)。録音前は液晶モニターをOFFにできません。
- 録音された音声は、SDメモリーカード内に WAVファイルとして保存されます。

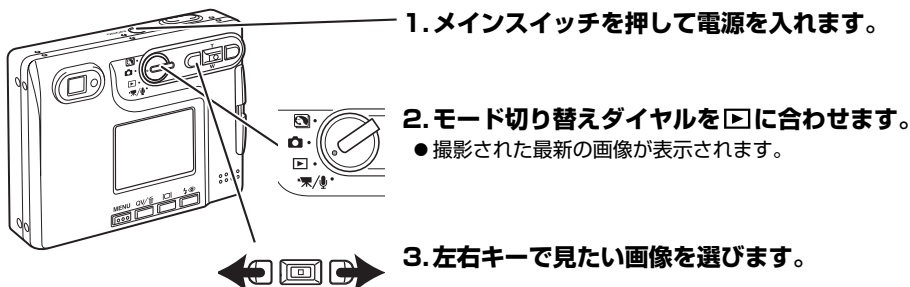
再生モード

カメラのモード切り替えダイヤルを ▶ 位置にすると、再生モードになり、撮影した静止画や動画を見ることができます。この章では、この再生モードについて説明しています。

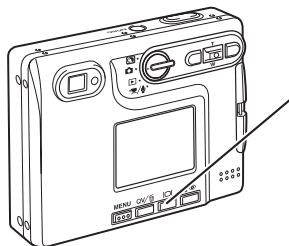
再生する

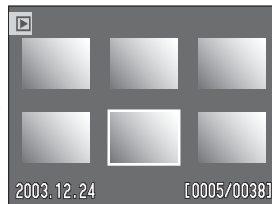
1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. モード切り替えダイヤルを▶に合わせます。

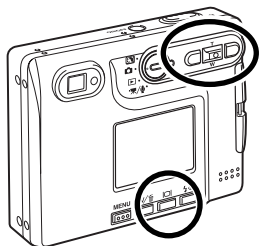
- 撮影された最新の画像が表示されます。

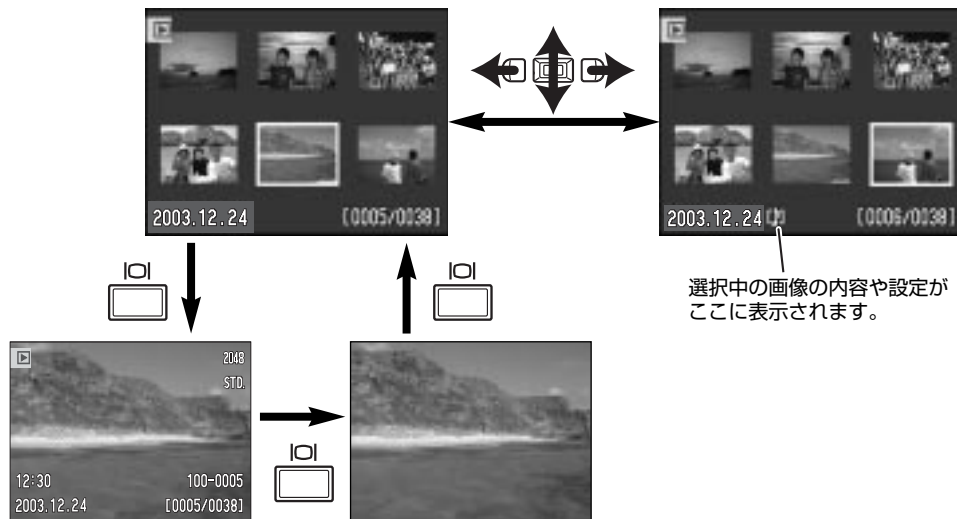
3. 左右キーで見たい画像を選びます。

- 左右キーを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に左右キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- クイックビュー（→ P.42）でも再生モードと同じ操作が可能です（再生モードメニューを除く）。
- 画像が記録されていない場合は、「画像がありません」というメッセージが現れます。
- 動画の場合は動画撮影開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。

画面表示の切り替え

再生モード位置（▶）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

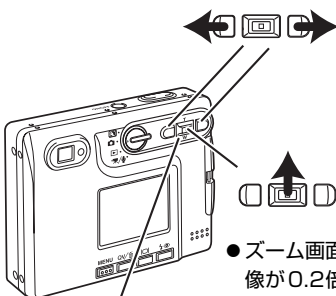
1コマ再生（表示あり） → 1コマ再生（表示なし） → インデックス再生 →次ページ

● この使用説明書では、1コマ再生・表示あり（左端）の状態で説明しています。

※各表示については → P.18

インデックス再生

インデックス再生時は、上下レバーと左右キーで、見たい画像を選択することができます。液晶モニターボタンで1コマ再生にすると、選択している画像が液晶モニターに表示されます。

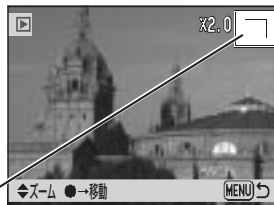
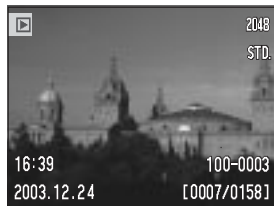
選択中の画像の内容や設定がここに表示されます。

拡大再生

再生画像を、最大6倍にまで拡大することができます。

● 動画の拡大再生はできません。

1. 再生モード位置(▶)で、左右キーで見たい画像を選びます。

2. 上下レバーを上に押します。

● ズーム画面が現れ、レバーを上に押すたびに画像が0.2倍ずつ、1.2倍から6倍まで拡大されます。下に押すと縮小されます。

● 現在の拡大倍率が画面右上に表示されます。その右に、元画像のどの部分を拡大表示しているかを示すインジケータ(白は元画像全体、黄色は拡大再生されている部分)が現れます。

● メニューボタンを押すと拡大前の画像に戻ります。

拡大再生中に上下レバー中央の実行ボタンを押すたびに、「ズーム画面」と「移動画面」を切り替えることができます。

ズーム画面

実行ボタンを押すと移動画面になる

移動画面

実行ボタンを押すとズーム画面になる

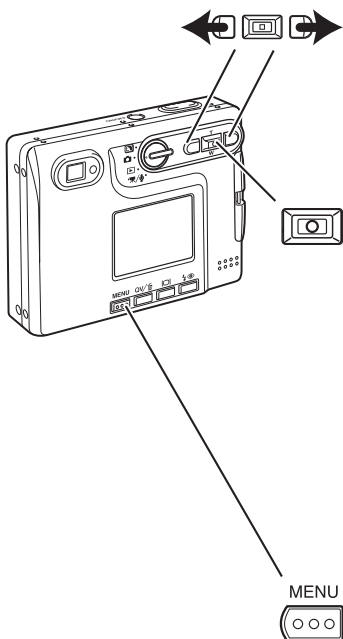
移動に合わせて白色内の黄色の部分も移動します。

「移動」画面選択中は、上下レバーまたは左右キーで、見たい部分を移動させることができます。

インデックス再生
拡大再生

動画や音声付き画像の再生

動画、ボイスメモやアフレコ（→ P.98）といった音声付き画像、ボイスレコードの再生方法は以下の通りです。1コマ再生またはインデックス再生で、該当する画像またはファイルを選択している状態にします。

動画の再生

1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、動画が撮影されたコマを選択します。

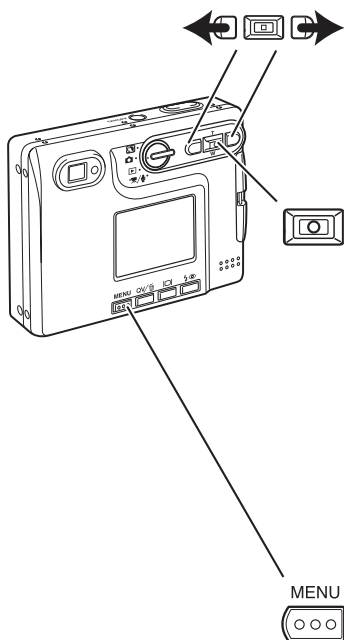
- 動画撮影開始時の画像が静止画として現れます。

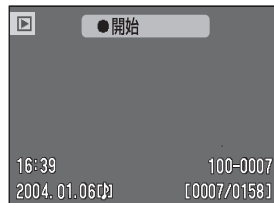
2. 上下レバー中央の実行ボタンを押すと、動画の再生が開始されます。

- 右上の数値は経過秒数です。
- 再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。左右キーで再生の巻戻し、早送りができます(右キーが早送り、左キーが巻戻し)。
- デジタルカメラのスピーカーから音声も同時に再生されます。再生中に上下レバーで音量の調節ができます。（上レバーで音量アップ、下レバーで音量ダウン。）

3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

- 最後まで再生が終了すると、自動的に再生開始前の画面に戻ります。
- 動画の拡大再生はできません。

ボイスレコードの再生

1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、ボイスレコードしたコマを選択します。

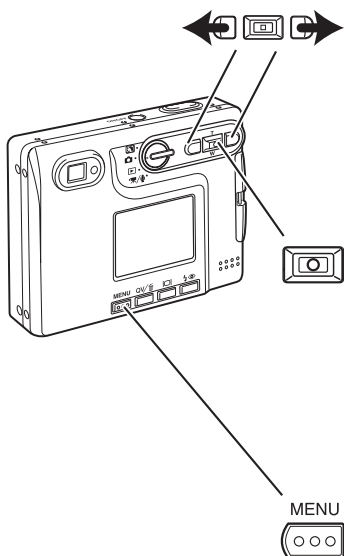
- 画面が青色になります。

2. 上下レバー中央の実行ボタンを押すと、ボイスレコードの再生が開始されます。

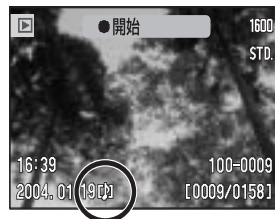
- 右上の数値は経過時間です。
- 再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。また左右キーで再生の巻戻し、早送りができます(右キーが早送り、左キーが巻戻し)。
- 再生中は、上下レバーで再生音量の調節ができます（上レバーで音量アップ、下で音量ダウン)。

MENU

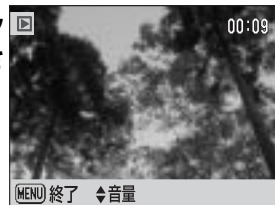
3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

- 最後まで再生が終了すると、自動的に開始前の画面に戻ります。

音声（ボイスメモ・アフレコ）付き画像の再生

1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、ボイスメモ、または、アフレコ付き画像を選択します。

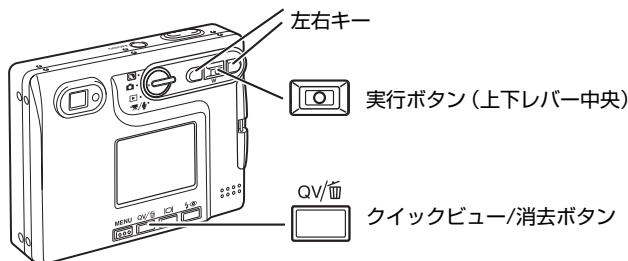
● 画面下に ♪ が表示されます。

2. 上下レバー中央の実行ボタンを押すと、音声が再生されます。

● 右上の数値は経過秒数です。

● 再生中は、上下レバーで再生音量の調節ができます（上レバーで音量アップ、下レバーで音量ダウン）。

● 途中で再生を終えるときは、メニューボタンを押してください。

画像を手早く消去する

再生モード位置で、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 再生モード位置（▶）で、消去したい画像を表示させせます。

2. クイックビュー/消去ボタンを押します。

- 右の画面が現れます。
- 消去しない場合は、左右キーで［いいえ］を選んでください。
- 画像がプロテクト（→ P.100）されていて、消去できない場合は右の画面が現れます。

プロテクトされています

3. 上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 画像が消去されます。

※複数の画像をまとめて消去するときは → P.95

再生モード時のメニュー

モード切り替えレバーが再生モード位置（▶）にあるときは、以下のメニュー設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→ P.50、51

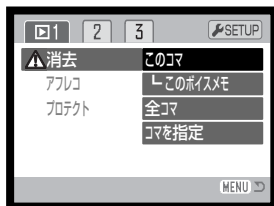
※SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチが「書き込み禁止」位置になっているとき（→ P.26）は、再生モードメニューはすべて設定できません（項目を選べません）。

▶1	
消去（→ P.95）	このコマ
	このボイスメモ
	全コマ
	コマを指定
アフレコ（→ P.98）	実行する
プロテクト（→ P.100）	このコマ
	全コマ
	コマを指定
	全コマ取り消し

▶2	
画像合成（→ P.102）	実行する
トリミング（→ P.104）	実行する
静止画切り出し（→ P.106）	実行する
動画切り出し（→ P.109）	実行する

▶3	
DPOF指定（→ P.112）	このコマ
	全コマ
	コマを指定
	全コマ取り消し
日付プリント（→ P.115）	あり
	[なし]

▶3	
インデックスプリント（→ P.115）	作成する
	[作成しない]
メール画像作成（→ P.116）	このコマ
	コマを指定
画像サイズ（→ P.116）	[640×480]
	160×120

画像の消去

画像を消去します。以下の4通りの消去方法があります。

このコマ（1コマ消去）：　再生中の画像を1コマだけ消去します。
└このボイスメモ：　再生中の画像が音声付き（ボイスメモ、アフレコ）の場合、その音声だけを消去します。
全コマ：　カード内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。

- 動画やボイスレコードも同様に消去できます。
- 音声付き画像の場合、画像を消去すると音声も同時に消去されます。音声だけ消去するには上記［このボイスメモ］を選択してください。
- **［このボイスメモ］は、音声の付いていない画像や動画、ボイスレコードのときは選択できません。**

※1コマずつ手早く消去する方法もあります。→ P.93

いったん消去した画像を復活させることはできません。

MENU →［▶1］→［消去］→【右側へ移動】→［*消去方法を選択*］→ 実行

1. 上記の手順で希望の消去方法を選択します。

「このコマ」「このボイスメモ」「全コマ」の場合
4.の確認画面へ

「コマを指定」の場合
2. 3.でコマを指定後、**4.**の確認画面へ

（次ページへ続く ☞）

2.「コマを指定」の場合、左右キーで消去するコマを選び、上下レバーを上側に押して指定します。

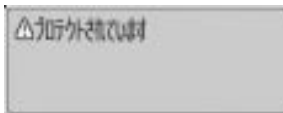
左右で
画像を選択し、

上側に押して
画像を指定します。

消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけ左の操作を繰り返します。

- 上下レバーを下側に押すと、画像の指定を取り消します。
- 🔑 が表示されている画像を指定すると下のメッセージが現れます。画像がプロテクト（誤消去防止 → P.100）されていて、その画像は消去できません。

⚠プロテクトされています

- 全コマ消去の場合、右のメッセージは現れませんが、プロテクト(誤消去防止)された画像は消去されずに残ります。

実行ボタンで指定を完了

3.上下レバー中央の実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

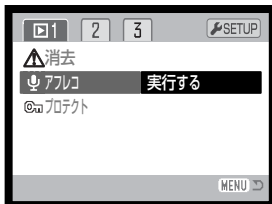
- **4.**の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

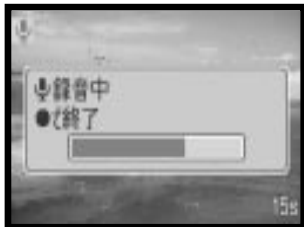
4. 確認後、消去を実行します。（下図は［コマを指定］［このボイスメモ］の場合の表示）

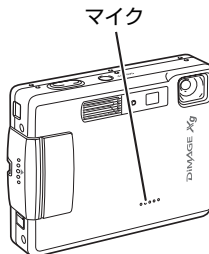
画像を消去する

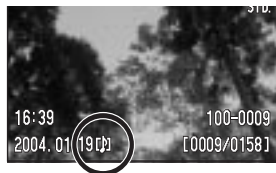
アフレコ

画像に音声を付けることができます。最大15秒間の録音が可能です。
※アフレコ ＝ アフターレコーディング（After recording）の略

1.再生モード位置（▶）で、音声を付けたい画像を選びます。

MENU →［▶1］→［アフレコ］→【右側へ移動】→［（実行する）］→ 実行

2.上記の手順でアフレコを開始します。

マイクに向かって話します。録音中は左図の画面が表示されます。

- 声を録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

3.録音を終了するときは実行ボタンを押します。

- アフレコは最大15秒間可能です。15秒経過すると、自動的に録音は終了します。
- メニューボタンを押すと元の画面にもどります。

- アフレコを付けた画像には、液晶モニターに が表示されます。
- アフレコを再生するには → P.92

● すでに音声（ボイスメモまたはアフレコ）が付いている場合、左のメッセージが表示されます。上書きする場合は「はい」を選択し、実行ボタンを押すと、前の音声を上書きして新たな音声が録音されます。

● 動画とボイスレコード、およびプロテクト（→ P.100）をかけた画像にはアフレコを付けることはできません。

大事な画像を残す（プロテクト）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の3通りのプロテクト方法と、プロテクトの取り消しがあります。

このコマ（1コマプロテクト）：
　再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
　1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。

全コマ（全コマプロテクト）：
　カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。

コマを指定：
　指定した画像だけにプロテクトをかけます。

全コマ取り消し：
　カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

MENU →［▶1］→［プロテクト］→【右側へ移動】→［*プロテクト方法を選択*］→ 実行

1. 上記の手順で希望のプロテクト方法を選択します。

「このコマ」「全コマ」「全コマ取り消し」の場合 メニューボタンで元の画面へ	「コマを指定」の場合 **2. 3.**でコマを指定

- 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに が表示されます。
- カードをフォーマット（初期化、→ P.124）すると、プロテクトのかかった画像も消去されます。

2.「コマを指定」の場合、左右キーでプロテクトするコマを選び、上下レバーを上側に押して指定します。

左右で
画像を選択し、

上側に押して
画像を指定します。

プロテクトを指定したコマには 🔑 が表示されます。必要なだけ左の操作を繰り返します。

- 上下レバーを下側に押すと、画像の指定を取り消します。

実行ボタンで指定を完了

3.上下レバー中央の実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

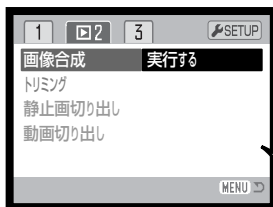
- 上下レバー中央の実行ボタンを押すと、プロテクト(コマ指定)が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

- 全コマ取り消しの場合は左の確認画面が現れます。左右キーで選択後、実行ボタンで実行してください。

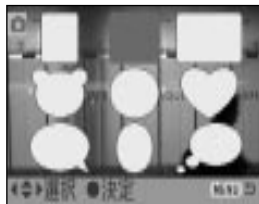
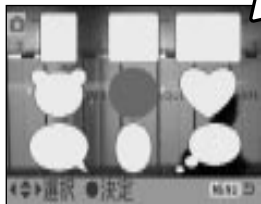
画像の合成

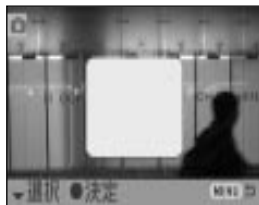
このカメラで合成写真を作成できます。

- すでに撮影した画像を背景に、別の撮影画像を合成して新たな画像を作成します。背景に選んだ画像は元画像としてそのまま残ります。
- モノクロで撮影した画像を背景にしてカラーの写真を合成するなど、設定次第でさまざまな合成写真をつくることができます。
- 動画やボイスレコードには合成できません(動画、ボイスレコードを再生時はメニュー画面で画像合成を選択できません)。
- カードに空き容量がないときは、メニュー画面で画像合成を選択できません。

1.再生モード(▶)で、背景となる画像(静止画)を再生させます。

MENU →[▶2]→[画像合成]→【右側へ移動】→[(実行する)]→ 実行ボタン

2.上記操作でメニューから[画像合成]を選び、実行します。

- 合成する画像の枠を選ぶ画面が表示されます。

3.上下レバーと左右キーで枠の種類を選び、実行ボタンを押します。

- 合成する画像枠の大きさを選ぶ画面が表示されます。

4. 上下レバーで枠の大きさを選び、実行ボタンを押します。

- 大、中、小の3段階から選べます。
- 実行ボタンを押すと、枠内にレンズを向けている被写体が現れ、合成位置を設定する画面が表示されます。

5. 上下レバーと左右キーで枠を合成したいところへ移動させ、実行ボタンを押します。

6. 枠の中に合成したい被写体を入れ、シャッターボタンを半押しします。

- シャッター音を設定していると、ピントが合った際に音が出ます。
- 合成する画像は、背景の画像と同じ画像サイズ、画質に設定されます。
- 画像サイズ、画質以外の撮影時の設定（ホワイトバランス、測光モード、撮像感度など）は、前回の撮影と同じ設定になります。
- 撮影中は上下レバーで光学ズームができます。

7. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

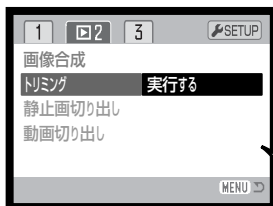
- 画像が合成されます。合成の処理が終わると、再生モードのメニュー画面に戻ります。

- 背景の画像が音声付き画像の場合は、作成した合成画像にも同じ音声が付きます。
- 背景画像と合成枠内の画像とで新たに1枚の画像を作成します。合成枠の中に撮影した画像は、その画像のみでは保存されません。

トリミング（画像の切り取り）

静止画の一部を切り取って新たな画像を作成します。

- すでに撮影した画像の一部を切り取って新たな画像を作成します。切り取り元の画像はそのまま残ります。
- 動画やボイスレコードはトリミングできません（動画、ボイスレコードを再生時はメニュー画面でトリミングを選択できません）。

1.再生モード（▶）で、切り取り元となる画像（静止画）を再生させます。

MENU → [▶2] → [トリミング] → 【右側へ移動】 → [（実行する）] → 実行ボタン

2.上記操作でメニューから [トリミング] を選び、実行します。

- 切り取る画像範囲を選ぶ画面が表示されます。

- 拡大せず等倍でトリミングすると、元画像と同じ画像をコピーできます。

3.拡大再生（→P.89）と同じ操作で、切り取りたい範囲をモニターに表示させます。

- 上下レバーで画像を拡大・縮小します。レバーを上に押すたびに画像が0.2倍づつ、1.2倍から6倍まで拡大されます。レバーを下に押すと同じステップで縮小されます。レバーを押し続けると連続して拡大・縮小されます。
- 上下レバー中央の実行ボタンを押すと、移動画面に変わります。

ズーム画面

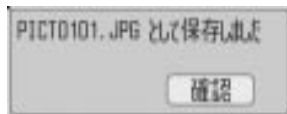
（→ 右上へ）

移動画面

●上下レバーと左右キーで画像全体を上下左右に移動させます。レバーやキーを押すたびに、画像が表示画面の1/8づつ上下左右に動きます。レバーやキーを押し続けると連続して移動します。

●上下レバー中央の実行ボタンを押すと、ズーム画面に変わります。（←左下へ）

4. 切り取りたい範囲がモニターに表示されたら、シャッターボタンを押し込んで、切り取りを実行します。

●切り取られた画像が保存されます。保存後に以下の確認表示が現れます。実行ボタンを押すと、確認表示が消えてメニュー画面に戻ります。

●切り取られた画像が保存されるときの画像サイズは、以下のようになります。

切り取ったサイズ	保存画像のサイズ
640×480以下	640×480
640×480を超え1280×960以下	1280×960
1280×960を超え1600×1200以下	1600×1200
1600×1200を超える	2048×1536

●切り取られた画像の画質は、元画像と同じ画質になります。たとえば元画像の画質がスタンダードなら、切り取られた画像の画質もスタンダードになります。

●切り取られる画像の縦横比は4：3で変更できません。

●320画素×240画素より小さい画像を切り取ることはできません。

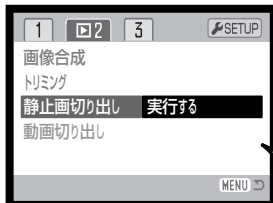
●「カードに空きがありません」のメッセージが表示されたときは、不要な画像を消去するなどでカードの空き容量を増やすか、切り取る画像のサイズを小さくしてください（この機能を使いたい場合は、カードに空き容量を（十分に）残しておいてください）。

動画の静止画切り出し

動画の1シーンを静止画として保存できます。元の動画はそのまま残ります。

- 静止画、ボイスレコード再生時は、メニュー画面で静止画切り出しを選択できません。

1. 再生モード(▶)で、動画が撮影されたコマを選びます。

- 動画撮影開始時の画像が静止画として現れます。

MENU → [▶2] → [静止画切り出し] → 【右側へ移動】 → [(*実行する*)] → 実行ボタン

2. 上記操作でメニューから [静止画切り出し] を選び、実行します。

- 動画がカメラ内部のメモリーに読み込まれた後、切り出すシーンを選ぶ画面が表示されます。

3. 左右キーで切り出したいシーンを選びます。

- 左右キーの右側を押すたびに、1フレームずつ映像が送られます。押し続けると早送りされます。
- 左右キーの左側を押すたびに、1フレームずつ映像が戻されます。押し続けると早戻しされます。

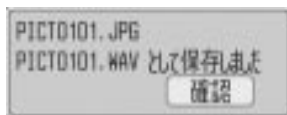
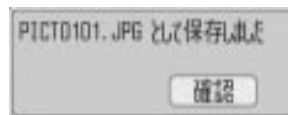
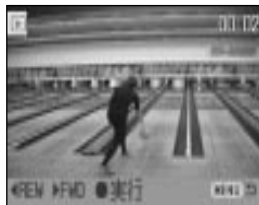
4. 切り出したいシーンが表示されたら、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- シーンが切り出されます。処理後、音声もいっしょに保存するかどうかを確認する以下の画面が現れます。

5. 音声も保存するときは、左右キーで [はい] を選んで実行ボタンを押します。

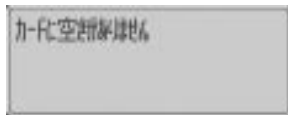
●切り出したシーンの前後合わせて (最長) 約15秒の音声が、切り出した静止画と同じファイル名の音声ファイルとしていっしょに保存されます。

●音声を保存しないときは、[いいえ] を選んで実行ボタンを押してください。静止画だけが保存されます。

●保存後、以下の確認画面が現れます。

音声もいっしょに保存した場合

静止画のみ保存した場合

●上下レバー中央の実行ボタンを押すと、切り出すシーンを選ぶ左図の画面に戻ります。必要に応じて、**3.**〜**5.**の操作を繰り返し、静止画切り出しを続けることができます。切り出し操作を終了するときは、メニューボタンを押してください。

(次ページへ続く ☞)

動画の静止画切り出し

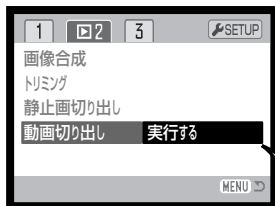
- 切り出される静止画の画像サイズは、切り出す元動画のサイズと同じ画像サイズになります（320×240、または、160×120のいずれかになります）。
- 切り出される静止画の画質は、エコノミー相当になります（動画の圧縮率と静止画の画質(圧縮率)とは一致しませんので、切り出された静止画には画質の情報は記録されていません）。
- 2.～5.の操作中にメニューボタンを押すといつでも切り出し作業を中断できます。

- このメッセージが表示されたときはカードに十分な空き容量がありません。不要な画像を消去するなどでカードの空き容量を増やしてください（この機能を使いたい場合は、カードに空き容量を(十分に)残しておいてください）。

動画の切り出し

動画の一部分を切り取って新たな動画を作成します。元の画像はそのまま残ります。

- 静止画、ボイスレコード再生時は、メニュー画面で動画切り出しを選択できません。
- 切り出される動画のサイズは、元動画のサイズと同じになります。

1.再生モード(▶)で、動画が撮影されたコマを選びます。

- 動画撮影開始時の画像が静止画として現れます。

MENU →[▶2]→[動画切り出し]→【右側へ移動】→[(実行する)]→ 実行ボタン

2.上記操作でメニューから[動画切り出し]を選び、実行します。

- 動画がカメラ内部のメモリーに読み込まれた後、切り出しの開始点を選ぶ画面が表示されます。

3.左右キーで切り出しの開始点を選びます。

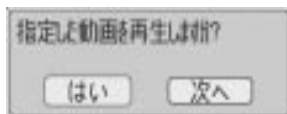
- 左右キーの右側を押すたびに、1フレームずつ映像が送られます。押し続けると早送りされます。
- 左右キーの左側を押すたびに、1フレームずつ映像が戻されます。押し続けると早戻しされます。

4.開始点を選んだら、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 切り出しの終了点を選ぶ画面(→ 次ページ)が表示されます。

(次ページへ続く ☞)

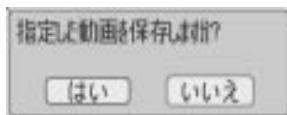
5.左右キーで切り出しの終了点を選びます。

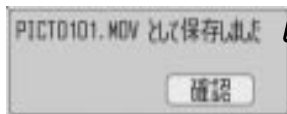
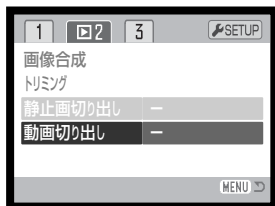
- 左右キーの右側を押すたびに、1フレームずつ映像が送られます。押し続けると早送りされます。
- 左右キーの左側を押すたびに、1フレームずつ映像が戻されます。押し続けると早戻しされます。
- 開始点より前の点は選べません。

6.終了点を選んだら、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 切り出した動画を再生して確認するかどうかを選ぶ画面（左図）が現れます。

7.確認のため切り出した動画を再生するときは、左右キーで［はい］を選んで実行ボタンを押します。

- 切り出した動画が再生されます。
- 再生が終わると、再び上記操作**6.**の画面が表示されます。［次へ］を選んで実行ボタンを押し、操作**8.**に進んでください。

再生しない場合は、［次へ］のまま実行ボタンを押して操作8.に進みます。

8.切り出した動画を保存するときは、左右キーで［はい］を選んで実行ボタンを押します。

- 切り出した動画が保存されます。保存されると、左図下の確認画面が現れます。実行ボタンを押してください。

保存しない場合は、［いいえ］のまま実行ボタンを押してください。

9. 画面は、動画切り出しのメニュー画面に戻ります。必要に応じて操作2.～操作8.を繰り返し、動画の切り出しを続けることができます。

- 動画の切り出しを終了するときは、左図でメニューボタンを押してください。

- 動画の切り出しは秒単位になります。たとえば、動画の1.5秒～4.5秒を選択した場合は、1秒～5秒の範囲が切り出されます。
- 切り出しの開始点と終了点を同じ位置にしたときは、その点を含む1秒の動画が切り出されます。
- 2.～8.の操作中にメニューボタンを押すといつでも切り出し作業を中断できます。
- 元動画の画像サイズとフレームレートによって、切り出すことのできる時間は以下のようになります。

元動画の画像サイズ	元動画のフレームレート	切り出し可能な時間
320×240	30 fps	最長10秒
	15 fps	最長19秒
160×120	30 fps	最長41秒
	15 fps	最長76秒

- このメッセージが表示されたときはカードに十分な空き容量がありません。不要な画像を消去するなどでカードの空き容量を増やしてください（この機能を使いたい場合は、カードに空き容量を（十分に）残しておいてください）。

DPOF(プリント)指定

撮影した画像を、ご自分のプリンタでプリントする場合やプリント店にプリントを依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことができます。

● プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。

*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。SDメモリーカード等のメディアに入っている画像のうち、どれを何枚印刷するのかを指定する方法。

デジカメで撮影した画像のプリント方法

①ご自分のプリンタで印刷する

画像をパソコンに取り込んで(→ P.144)、そこから印刷する方法が一般的です。
PictBridge対応のプリンタをお使いの場合は、カメラとプリンタを付属のUSBケーブルで接続するだけでプリントすることができます。→ P.167

②ネットプリントを利用する

インターネット経由でプリントの依頼ができます。コニカミノルタオンラインラボ http://onlinelab.jp/ では、画像のプリントの他に、「オンラインアルバム」「オンラインDVDサービス」などさまざまなサービスをご用意しております。ぜひご利用ください。

③ご購入店やコンビニなどにプリントを依頼する

メモリーカードをご購入店やカメラ店、コンビニ等にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントすることができます。

プリントする画像を指定する

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法と、全コマ取り消しがあります。

このコマ(1コマプリント)：	再生中の画像を1コマだけDPOF(プリント)指定します。
全コマプリント：	カード内の画像すべてをDPOF(プリント)指定します。
コマを指定：	指定した画像だけをDPOF(プリント)指定します。
全コマ取り消し：	カード内の画像すべてのDPOF(プリント)指定を取り消します。

● 動画、ボイスレコードのDPOF(プリント)指定はできません。

MENU →［▶3］→［DPOF指定］→【右側へ移動】→［*指定方法を選択*］→ 実行ボタン

1. 上記の手順で希望のプリント指定方法を選択します。

「このコマ」「全コマ」の場合
2.に進んで枚数を指定

「コマを指定」の場合
3. 4.でコマと枚数を指定

2.「このコマ」「全コマ」の場合、上下レバーで希望の枚数を選んで実行します。

- 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。
- 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0～9枚）。

上下レバーで
枚数を指定して、

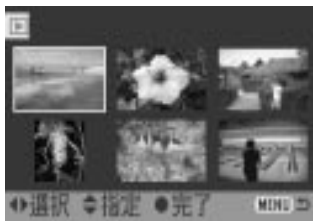
実行ボタンで決定

メニューボタンで元の画面に

- 再生時、DPOF（プリント）指定された画像には、液晶モニターに🖶と枚数が表示されます。🖶のみで数字がなければ、DPOF（プリント）指定枚数は1枚です。
- 全コマ指定後に撮影した画像は、DPOF（プリント）指定されません。

（次ページへ続く ☞）

3.「コマを指定」の場合、左右キーでDPOF(プリント)設定するコマを選び、上下レバーを押して印刷枚数を指定します。

左右で
画像を選択し、

上下で
枚数を指定します。

プリント指定したコマには🖶と枚数が表示されます。
必要なだけ左の操作を繰り返します。

実行ボタンで指定を完了

4.実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、DPOF(プリント)指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ元の画面にもどります。

- 再生時、DPOF(プリント)指定された画像には、液晶モニターに🖶と枚数が表示されます。🖶のみで数字がなければ、DPOF(プリント)指定枚数は1枚です。

日付プリント

プリントする際に、プリンタ側で日付を印字するかどうかを選べます。日付の印字される場所(画面内/画面外)や印字される文字のサイズ等は、お使いのプリンタによって異なります。

- 印字されるのは「年月日」だけです。時刻は印字されません。
- プリンタによっては、この機能に対応していない機種もあります。
- 画面内右下への日付写し込み (→ P.72) とは別の機能ですので、重なって印字されないようお気をつけください。

MENU →[▶3]→[日付プリント]→【右側へ移動】→[*あり* または *なし*]→ 実行ボタン

インデックスプリント

カードに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます(インデックスプリント)。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントを作成するかしないかを選べます。初期設定ではインデックスプリントは [作成しない] です。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
- インデックスプリント [作成する] に設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

MENU →[▶3]→[インデックスプリント]→【右側へ移動】→[*作成する* または *作成しない*]→ 実行ボタン

DPOF指定

メール画像作成

カードに記録された画像から、Eメール添付に適したメール画像（画像サイズ640×480 または 160×120、画質エコノミー）を作成することができます。元の画像はそのまま残ります。

このコマ（1コマのみ作成）：　再生中の画像を1コマだけメール用に新たに作成します。

コマを指定：　指定した画像をすべてメール用に新たに作成します。

画像サイズの設定

画像サイズは、メール画像を作成する前にあらかじめ設定してください。

MENU →［▶3］→［画像サイズ］→【右側へ移動】→［*640×480 または 160×120*］→ ▣ 実行 → **MENU**

上記の手順で、作成するメール画像のサイズを選びます。

- 画像サイズ640×480の画像は、パソコンなどでのEメールに添付する画像に適しています。160×120の画像は、携帯電話へのメールに添付する画像に適しています。

メール画像の作成

MENU →［▶3］→［メール画像作成］→【右側へ移動】→［*指定方法を選択*］→ ▣ 実行

1. 上記の手順で希望のコマ指定方法を選択します。

「このコマ」の場合 **4.**の確認画面へ	「コマを指定」の場合 **2. 3.**でコマを指定後、**4.**の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、左右キーでメール画像作成するコマを選び、上下レバーを上側に押して指定します。

左右で
画像を選択し、

上側に押して
画像を指定します。

画像作成を指定したコマには☑が表示されます。必要なだけ左の操作を繰り返します。

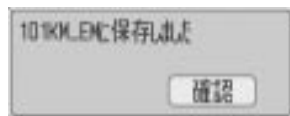
- 上下レバーを下側に押すと、画像の指定を取り消します。

実行ボタンで指定を完了

3. 実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- 上下レバー中央の実行ボタンを押すと、**4.**の確認画面に進みます。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ元の画面にもどります。

（次ページへ続く ☞）

4. メール画像作成が完了すると、以下の確認画面が現れます。

保存先のフォルダ名が表示されます。

● 再生時、メール画像として作成された画像には、液晶モニターに ✉ が表示されます。

メール画像を作成すると、

- ● 再生時には、新たに作成された画像が最新画像として液晶モニターに表示されます。
- ● カード内に "3桁の数字"＋"KM_EM" という名称のフォルダが自動的に作成され、作成されたメール画像はその中に保存されています。先頭の数字3桁はフォルダの通し番号です。
（KM＝Konica Minolta、EM＝E-mail の意味）

● 動画から直接メール画像を作成することはできません。いったん動画の1シーンを静止画として切り出してから（→ P.106）、メール画像を作成してください。ただし、動画から切り出した静止画から640×480サイズのメール画像は作成できません。

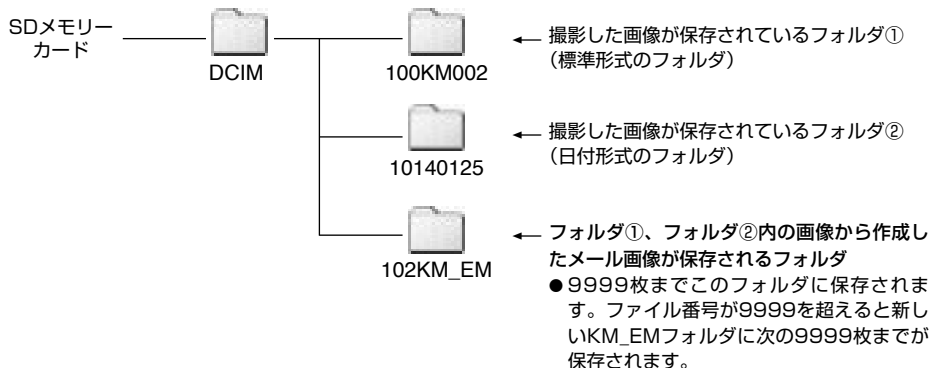
● プロテクトされた画像からメール画像を作成した場合、作成された画像にはプロテクトがかかっていません。

● ボイスメモやアフレコで音声を付けた画像から作成されたメール画像には、元画像と同じ音声が付けられています。

● 元画像とメール用に作成された画像とはそれぞれ別のファイルとして扱われ、ファイル番号も変わります。たとえば、ある元画像を消去しても、それから作成されたメール画像は消去されずに残っています。

● 作成されたメール画像は、カード内に作られる “KM_EM” という名前のフォルダにまとめて保存されます（KM=Konica Minolta、EM=E-mail の意味）。詳しくは → P.125

● 9999枚までこのフォルダに保存されます。ファイル番号が9999を超えると新しいKM_EMフォルダに次の9999枚までが保存されます。

画像が多すぎます
指定し直してください

● 左のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくてカードの容量を超えています。画像の数を減らして指定し直してください。

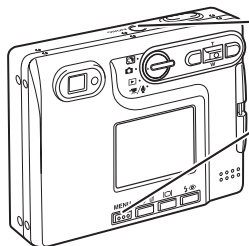
⚠作成できません

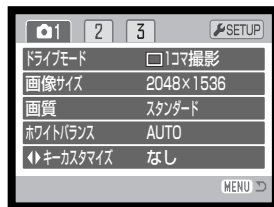
● 左のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えているか、動画 あるいは すでに作成済みのメール画像で、メール画像を作成できません。

メール画像作成

セットアップモード

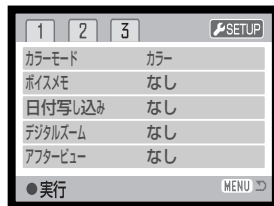
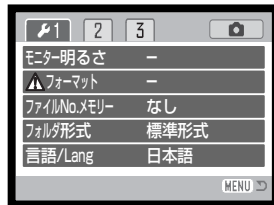
セットアップモードでは、カメラの細かな設定を変更することができます。この章では、このセットアップモードについて説明しています。

セットアップモードにするには

1. メインスイッチを押して電源を入れます。モード切り替えダイヤルはどの位置でも構いません。

2. メニューボタンを押してメニュー画面を表示させます。

3. 左右キーで画面右上の SETUP を選んで反転させます。

4. 上下レバー中央の実行ボタンを押します。

● セットアップ画面（右図）になります。

セットアップモードメニュー

セットアップモードでは以下の設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです（→P.50、51）。

[1]	
モニター明るさ（P.123）	実行する
フォーマット（P.124）	実行する
ファイルNo.メモリー（P.128）	あり
	◎なし
フォルダ形式（P.129）	◎標準形式
	日付形式
言語/Lang.（P.130） (*)日本語以外の言語に設定している場合は、日本語/JPNと表示される	◎日本語(*)
	English
	Deutsch
	Français
	Español

[3]	
設定値リセット（P.135）	実行する
日付設定（P.28）	実行する
日付並び（P.137）	◎年/月/日
	月/日/年
	日/月/年
USB接続（P.138）	◎カードリーダー
	PCカメラ
	PictBridge

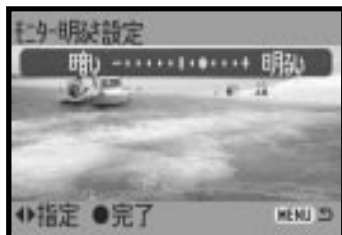
[2]	
操作音（P.131）	◎音1
	音2
	なし
シャッター音（P.131）	◎音1
	音2
	音3
	なし
音3録音（P.132）	AF音
	シャッター音
音量（P.131）	3（大きい）
	◎2
	1（小さい）
オートパワーオフ（P.134）	30分
	10分
	5分
	◎3分
	1分

◎は初期設定値です。

- セットアップモードメニューでの設定は、カメラの電源を切ったりモード切り替えダイヤルでモードを切り替えても、保存されています。

液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整することができます。

SETUP →[1]→[モニター明るさ]→【右側へ移動】→[(実行する)]→ 実行

1. 上記の手順で、モニター明るさ設定画面を表示させます。

- 左図の画面が現れます。

2. 左右キーでモニターの明るさを調整します。

3. 上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 元の画面にもどります。

- セットアップモードメニューから実行する代わりに、液晶モニターボタンを約2秒間押し続けると、上記の明るさ設定画面が現れて画面の明るさを調整できます。この場合は、明るさ設定画面で約5秒間何も操作をしないでいると、自動的に元の画面にもどります。

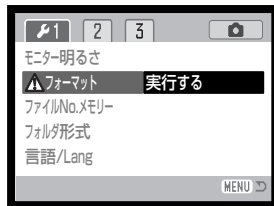
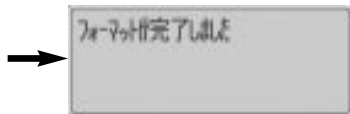
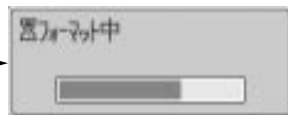
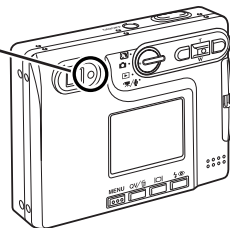
- 液晶モニターの明るさを変えても、撮影される画像の明るさは変わりません。画像そのものの明るさを変える場合は、露出補正をお使いください。→ P.67

カードのフォーマット(初期化)

カード内の画像やフォルダ(→ P.125〜)をすべて消去するときには、SDメモリーカードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

MENU →[1]→[フォーマット]→【右側へ移動】→[(実行する)]→ 実行

1. フォーマットするカードをカメラに入れ、上記の手順でフォーマットを選択します。

2. 左右キーと実行ボタンでカードのフォーマットを実行します。

● カードのフォーマットは、このページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードをフォーマットすると、カメラがカードを認識できないことがあります。カメラ以外でフォーマットした場合は、撮影する前にカメラで再フォーマットしてください。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内のファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

● 以下は、カードの内容をパソコンで表示させたときのフォルダ構成です。

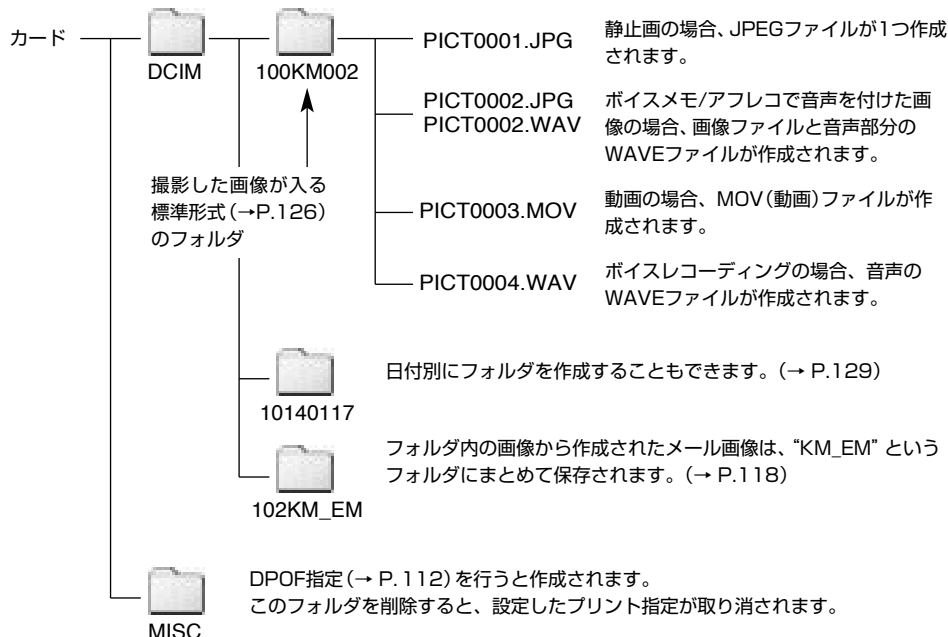
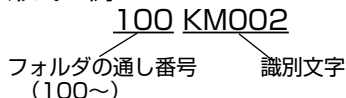
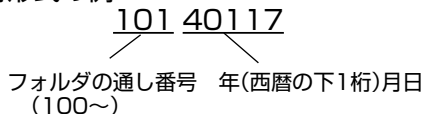
フォルダ名について

標準形式の例：

100 KM002

フォルダの通し番号（100～）　識別文字

日付形式の例：

101 40117

フォルダの通し番号（100～）　年(西暦の下1桁)月日

フォルダ名は、**標準形式**の場合“フォルダの通し番号3桁”＋“識別文字5文字”、
日付形式の場合“フォルダの通し番号3桁”＋“年(西暦の下1桁)月日”となります。

通し番号は“100”から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
標準形式のフォルダの場合、識別文字は“KM002”です。“KM”はコニカミノルタを、“002”はこのカメラ(DiMAGE Xg)を表します。
標準形式/日付形式いずれのフォルダの場合も、メール画像の入るフォルダの識別文字は“KM_EM”です。

- 標準形式フォルダの識別文字5文字、および、日付形式フォルダの年月日5文字は、カメラをパソコンに接続してカード(の内容)を表示させたときに確認できます。
- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか(→ P. 144～)、カメラ側でカードをフォーマットしてください(→ P. 124)。

ファイル名について

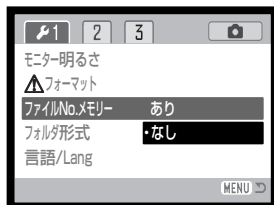
例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁の通し番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

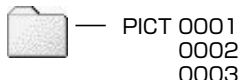
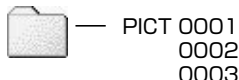
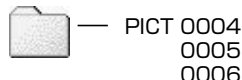
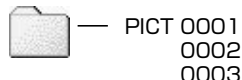
- カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び0001から始まります（ファイルNo.メモリーを「なし」に設定している場合。→ P. 128）。
- “PICT9999”まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（125ページの例だと“103KM002”）、その中で再び“PICT0001”から画像の記録が開始されます。
- 各フォルダ内では、常にファイル名は“PICT0001”から（すでにファイルが存在する場合はその次の番号から）始まります（ファイルNo.メモリーを「なし」に設定している場合。→ P. 128）。

  ※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.128
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

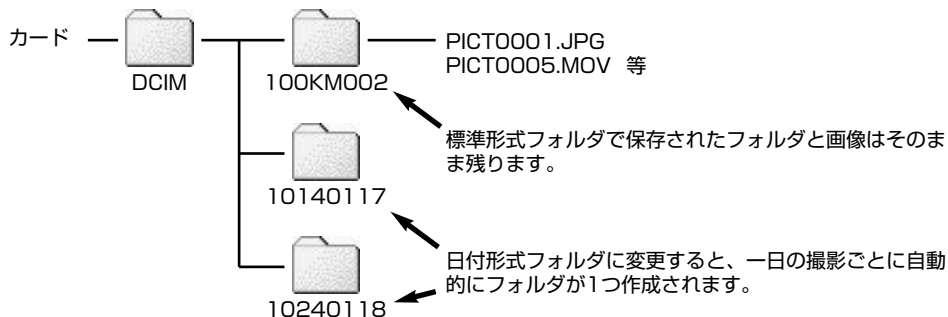
ファイルNo.メモリー

初期設定のファイルNo.メモリー [なし] では、フォルダが変わるたびにファイル名は再び “PICT0001” から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし：　ファイルNo.メモリーは機能しません。メール画像の作成、日付形式フォルダで日付が変わる等でフォルダが変わると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

あり：　ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

SETUP → [1] → [ファイルNo.メモリー] → 【右側へ移動】 → [ありまたはなし] → 実行

フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

初期設定の標準形式フォルダ（100KM002 など）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存することができます。

SETUP →［1］→［フォルダ形式］→【右側へ移動】→［*標準* または *日付*］→ 実行

● 初期設定では、日付が変わってフォルダが変わるたびに、中のファイル番号は PICT0001 にもどります。

※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.128

● 日付形式フォルダは、カメラの日付・時刻を正確に合わせた状態でお使いください。

言語設定

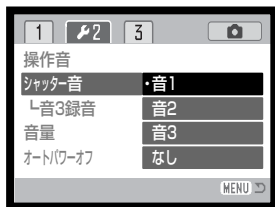
画面に表示される言語を、5カ国語の中から選ぶことができます。初期設定は [日本語] です。

SETUP → [1] → [言語/Lang.] → 【右側へ移動】 → [*希望の表示言語*] → 実行

● 選べる言語は以下の通りです。

- ・日本語 (※)
- ・英語（**English**）
- ・ドイツ語（**Deutsch**）
- ・フランス語（**Français**）
- ・スペイン語（**Español**）

(※) 日本語以外の言語を選んだときは、日本語/JPN と表示されます。

操作音と音量の設定

カメラを操作したり撮影のためシャッターを切ると、操作音やシャッター音が鳴ります。その音量を変えたり、音が鳴らないようにすることができます。操作音は [音1] [音2] [なし] の3つから、シャッター音は [音1] [音2] [音3] [なし] の4つの中から選べます。音量は3段階から選ぶことができ、操作音とシャッター音の両方に反映されます。シャッター音やAF音(オートフォーカスでピントが合ったときの確認音)を自分で録音することもできます。
初期設定は、操作音は [音1]、シャッター音は [音1]、音量は [2] です。

SETUP → [2] → [操作音] → 【右側へ】 → [*音1* または *音2* または *なし*] → 実行

SETUP → [2] → [シャッター音] → 【右側へ】 → [*音1〜音3* または *なし*] → 実行

SETUP → [2] → [音量] → 【右側へ】 → [*3* または *2* または *1*] → 実行

操作音	レバーを動かす、ボタンを押す、ダイヤルを回すなど、カメラを操作したときに鳴る音	音1（機械音をベースにした音が鳴ります）
		音2（電子音をベースにした音が鳴ります）
		なし（操作音は鳴りません）

シャッター音	シャッターを切ったときに鳴る音	音1（ミノルタCLEのシャッター音）
		音2（電子的なシャッター音）
		音3（ご自分で録音されたシャッター音、AF音）
		なし（シャッター音は鳴りません）

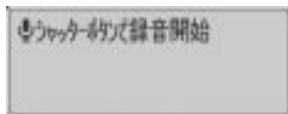
音量	3（大きい）
	2
	1（小さい）

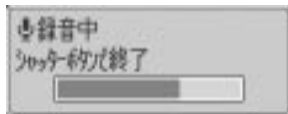
（次ページへ続く ☞）

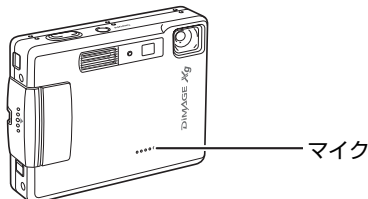
シャッター音、AF音を録音する

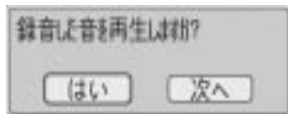
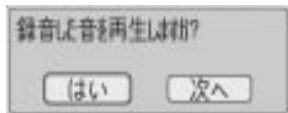
シャッター音、AF音（オートフォーカスでピントが合ったときの確認音）をご自分で録音することができます。シャッター音とAF音 それぞれ別の音を録音することができます。

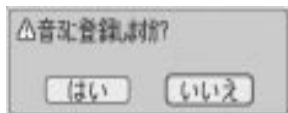
- お買い上げ時は、[音3] のシャッター音には [音1] と同じ音が、AF音にはもともとカメラに設定されている音が、それぞれ入っています。

SETUP → [2] → [音3録音] → 【右側へ】 → [*AF音* または *シャッター音*] → 実行

1. 上記の操作で録音する音を選び、実行します。

- 録音開始画面（左図）が現れます。

2. シャッターボタンを押して録音を開始します。

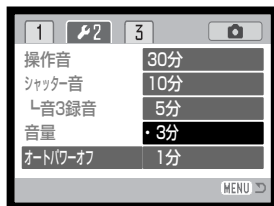
- マイクに向かって話す、音を出すなどしてください。
- 録音時間は最長4秒までです。

3. 再度シャッターボタンを押して録音を終了します。

- 4秒経過すると、録音は自動的に終了します。
- 録音した音を再生するかどうか選ぶ画面（左図）が表示されます。

4. 録音した音を再生する場合は、[はい] を選んで上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 再生しない場合は、[次へ] を選んで実行ボタンを押します。
- 再生中は上下レバーで音量の調整ができます。
- 再生後は再び音を再生するかどうか選ぶ、左図の画面にもどります。[次へ] を選んで実行ボタンを押すと、音を登録するかどうか確認画面が現れます。

5. 登録する場合は、[はい] を選んで上下レバー中央の実行ボタンを押します。

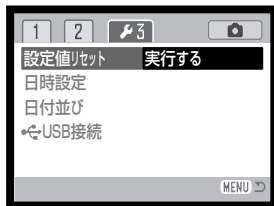
- 再度音を録音・登録すると、古い音は新しい音で上書きされます。

- 録音・登録したAF音に切り替えるときは、シャッター音で [音3] を選んでください。
- シャッター音で [音3] 以外を選ぶと、AF音はもともとカメラに設定されている音になります。
- 設定値リセット（→ P.135）を行うと、[音3] のシャッター音は [音1] と同じ音に、AF音はもともとカメラに設定されている音に、それぞれもどります。

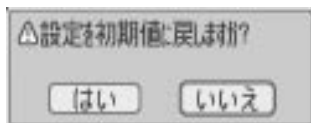
オートパワーオフ

初期設定では、約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に電源が切れ、液晶モニターの表示が消灯します（オートパワーオフ）。このオートパワーオフまでの時間を、1分、3分、5分、10分、30分のいずれかに変更することができます。

SETUP →［2］→［オートパワーオフ］→【右側へ】→［*希望の時間*］→ 実行

● オートパワーオフ後に操作を再開したいときは、メインスイッチを押してカメラの電源を入れてください。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、初期設定（お買い上げ時の設定）にもどすことができます。

SETUP →［3］→［設定値リセット］→【右側へ移動】→［*（実行する）*］→ 実行

初期値にしました

1. 上記の手順で、設定値リセットを実行します。

- 左図の確認画面が現れます。

2. 左右キーで［はい］を選び、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 設定値リセットが完了すると、左図下の画面が現れます。上下レバー中央の実行ボタンで元の画面にもどります。

リセットされる内容は以下の通りです。

ボタンで設定するもの		
項目	設定	ページ
フラッシュモード	自動発光	45
フォーカスエリア	ワイドフォーカスエリア	48
液晶モニター表示（撮影時）	液晶モニターON（表示あり）	41
液晶モニター表示（再生時）	1コマ再生（表示あり）	87

撮影モードメニュー		
項目	設定	ページ
ドライブモード	1コマ撮影	54
画像サイズ	2048×1536	58
画質	スタンダード	60
ホワイトバランス	AUTO	62
左右キーカスタマイズ	なし	63
撮像感度	AUTO	64
測光モード	多分割	66
露出補正	±0.0	67
ノイズリダクション	あり	68
オートリセット	あり	69

（次ページへ続く ☞）

設定値リセット

撮影モードメニュー（続き）

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
カラーモード	カラー	70
ボイスメモ	なし	71
日付写し込み	なし	72
デジタルズーム	なし	73
アフタービュー	なし	74

動画モード時のメニュー

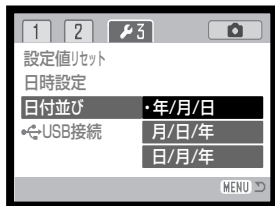
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
/切り替え	動画	76
画像サイズ	320×240	80
フレームレート	15fps	80
ナイトムービー	OFF	81
ホワイトバランス	AUTO	62
露出補正	±0.0	67
カラーモード	カラー	70

再生モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
日付プリント	なし	115
メール画像サイズ	640×480	116

セットアップモードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	123
ファイルNo.メモリー	なし	128
フォルダ形式	標準形式	129
操作音	音1	131
シャッター音	音1	131
音量	2	131
オートパワーオフ	3分	134
USB接続	カードリーダー	138

日付並び

日付の並び順を変えることができます。

SETUP → [3] → [日付並び] → 【右側へ移動】 → [*希望の並び順*] → 実行

上記の手順で、日付並び順を選びます。

- ここでの設定は、再生画面/クイックビュー画面に表示される撮影日や、日付写し込み [あり] で写し込まれる日付の並び順にも反映されます。

撮影日の並び順が変わっています
（上の例では月日年の順）

※日付・時刻の設定（修正）のしかたは → P.28

USB接続

USB接続時のカメラの動作モードを設定します。

カードリーダー　：　カメラとパソコンを接続してカード内の画像をパソコンに取り込む場合は「カードリーダー」にします。→ P.140

PCカメラ　：　Windows Messenger, Windows NetMeeting と連動して、画面に映像を表示させる場合には「PCカメラ」を選びます。→ P.160～

PictBridge　：　PictBridge対応プリンターと接続してカード内の画像を印刷する場合は「PictBridge」を選びます。→ P.167～

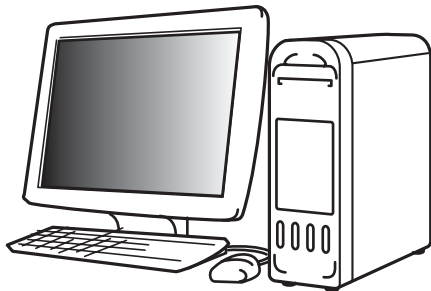
SETUP → [3] → [USB接続] → 【右側へ移動】 → [*希望の設定*] → 実行

上記の手順で、希望の動作モードを選びます。

パソコンと接続する

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

また、Windows®パソコンをお持ちの方は、このカメラをパソコンへの画像入力装置（PCカメラ）としてご使用できます。

- カメラとパソコンを接続して画像をパソコンに取り込む場合は、セットアップモードの［3］タブの［USB接続］の設定を「**カードリーダー**」にしてください。→ 前ページ参照
- カメラをパソコンへの画像入力装置（PCカメラ）として使用する場合は、セットアップモードの［3］タブの［USB接続］の設定を「**PCカメラ**」にしてください。→ 前ページ参照

動作環境

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には付属のUSBケーブルUSB-500をお使いください（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM-PC/AT互換機	Apple Macintosh
OS	Windows®XP（Home, Professional）、 Windows®2000 Professional、 Windows®Me、Windows®98/98 Second Edition がインストール済み	Mac OS 9.0〜9.2.2、 Mac OS X v10.1.3〜v10.1.5、 v10.2.1〜v10.2.8、 v10.3 〜v.10.3.1 がインストール済み
その他	USBポート標準装備	

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートはパソコン本体に標準装備されたポートのみサポートします。ハブ経由で接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 自作機、ショップブランドなどの各種ボード類を含めて組み立てられた機種は除きます。
- 上記環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページ（コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト）をご覧いただくか、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

http://ca.konicaminolta.jp/

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows®XP、Me、2000 Professional の場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.142〜

● USB 2.0対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

動画の再生にはQuickTimeが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→ P.158

Windows®98/98 Second Edition の場合

付属のディマージュビューアCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→ P.152

その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→ P.142〜

● USB 2.0対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

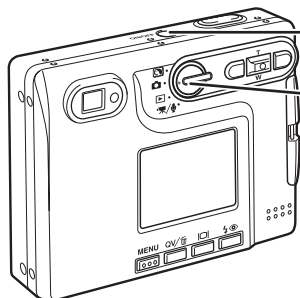
動画の再生にはQuickTimeが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→ P.158

Macintoshの場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→ P.142〜

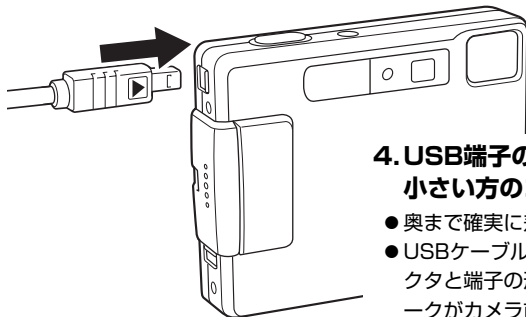
● USB 2.0対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

パソコンに接続する（USB接続）

1. パソコンの電源を入れます。

2. カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

● モード切り替えダイヤルはどの位置でも構いません。

3. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

4. USB端子のカバーを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

● USBケーブルのコネクタがUSB端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の▶マークがカメラ前面側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。

● USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際には149ページ、150ページの指示にしたがってください。

- USB接続が確立されると、液晶モニターに が現れます。
- “USB接続中” のメッセージがいつまでも消えない場合は、USBケーブルが確実に差し込まれているか確認してください。
- USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると自動的にカメラがOFFになります（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は自動的にカメラがOFFになることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→ P.149、150
- Windows®98/98 Second Edition 使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合は152ページへ、すでにしている場合は155ページへ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

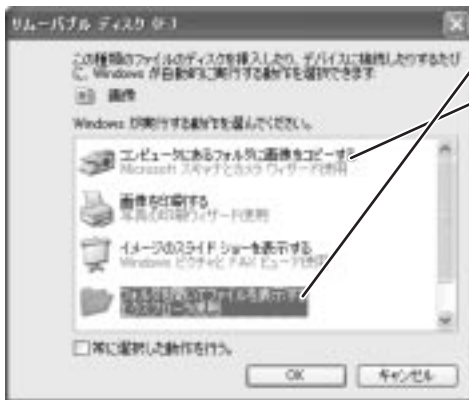
画像ファイル(動画ファイルを含む)を、パソコンにコピーして保存します。

● カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプターセット AC-401の使用をおすすめします。

● カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中(アクセスランプ点灯中)には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。

● カードのフォーマットは、原則としてカメラ側で行なってください(→ P.124)。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。

● パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

Windows®XPの場合

1. [フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

● [コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。

● パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の [スタート] → [マイ コンピュータ] → [リムーバブルディスク] を開いてください。[リムーバブルディスク] が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。

② [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

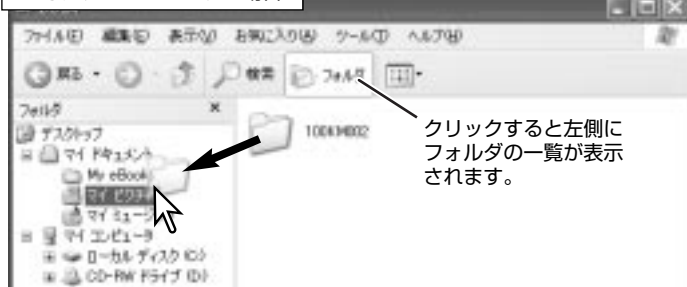
- リムーバブルディスクの後のアルファベット(左図の例ではF:)は、ご使用のパソコンによって異なります。
- [DCIM] 以外のフォルダ（[MISC] 等)は削除しないでください。

③ [100KM002] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は [100KM002] です。カメラの操作で、別の名前のフォルダも表示されることがあります。
- フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

④保存したいフォルダ、または、ファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、[100KM002] 等のフォルダを、まるごと [マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。

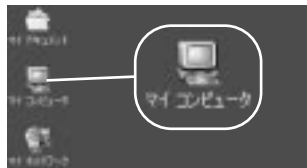
[100KM002] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

ファイルごとにコピーする場合

クリックすると左側にフォルダの一覧が表示されます。

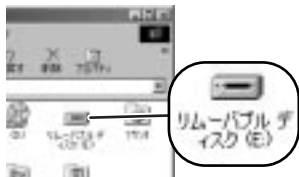
[PICT0001.JPG] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

●画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

●コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows®2000/Me/98/98SEの場合

1.デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

●カメラ内のカードが、「リムーバブルディスク」として現れます。（ドライブ名（右上の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。

※それでも「リムーバブルディスク」が現れない場合は → P.155

2.「リムーバブルディスク」をダブルクリックして開きます。

●「DCIM」フォルダが現れます。

DCIM

3. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

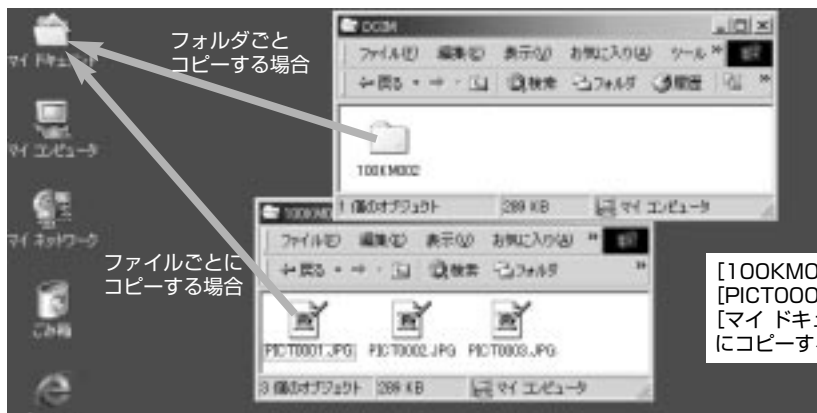
●その他のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

100KM002

4. [100KM002] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は [100KM002] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。→ P.126

●フォルダを開けると [PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。お使いのパソコンの設定により、[PICT0001] [PICT0001.JPG] など、拡張子（この場合は“.JPG”）が付く場合と付かない場合があります。

5. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

[100KM002]
[PICT0001.JPG] を
[マイ ドキュメント]
にコピーする例

● 同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。
● [マイ ドキュメント] 以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）
● 現れない場合は、Mac OSを再起動してください。

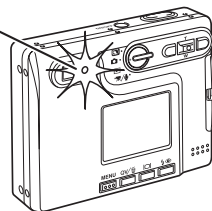
1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. 前ページの3.～5.の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。
● [マイ ドキュメント] の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

イメージキャプチャアプリケーションを利用する場合（Mac OS Xのみ）

Mac OS Xでは、カメラとパソコンを接続すると、左図のイメージキャプチャ（Image Capture）アプリケーションが起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、[一部をダウンロード...] または [すべてをダウンロード] をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは、Mac OSのヘルプ画面等をご覧ください。

接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。USB接続した状態でカメラ内のカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows®XP/Me/2000 Professionalの場合

お使いのWindows® OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている [ハードウェアの安全な取り外し] または [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] のアイコンを左クリックします。

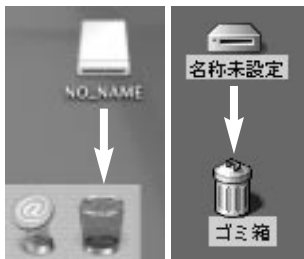
3. [USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）] または [USBディスクの停止] を左クリックします。
4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または [OK] をクリックします。
5. USBケーブルを取り外します。
6. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

接続を解除する

- 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの**2.**で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。
  1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
  2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
  3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
  4. USBケーブルを取り外す。

Windows®98 または 98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. USBケーブルを取り外します。
3. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. USBケーブルを取り外します。
4. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開く

1. 画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開きます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

このカメラで撮影された画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトウェアで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→ DiMAGE Viewer使用説明書参照

MOVファイル

動画撮影の画像で、最後に「.MOV」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトウェアが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→ P.158

● DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
● Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

WAV（WAVE）ファイル

ボイスレコーディングや音声付き画像の音声部分で、最後に「.WAV」が付きます。OSに付属の音声再生ソフトウェア（Windows Media Player, QuickTime Player等）で再生できます（音声付き画像の音声部分の場合、画像と同時に再生することはできません）。

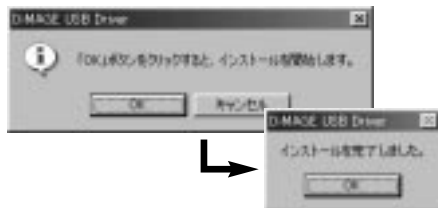
ドライバのインストール（Windows®98/98SEのみ）

Windows®98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

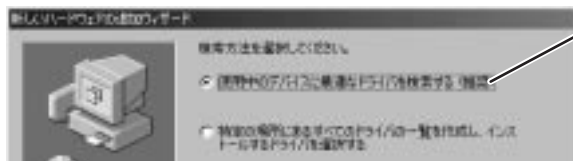
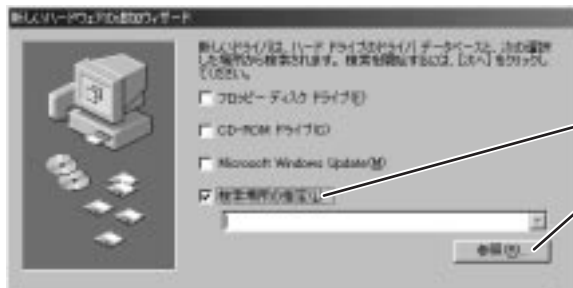
3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

● このカメラ（DiMAGE Xg）のWindows®98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows®98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE XgのUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE Xgのドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→ P.142～

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

（次ページへ続く ☞）

5. 検索場所を、[CD-ROM] − [Win98] − [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsパソコンをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページ（コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト）の次のページも合わせてご覧ください。→ http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→ P.142

- パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

- Windows®XPの場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
- Windows®Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows®XP

Windows®Me、2000、98、98SE

（次ページへ続く ☞）

3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

- Windows®XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows®Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

Windows®XP、2000

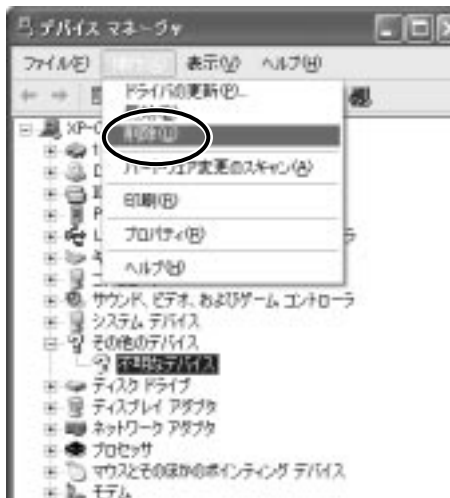
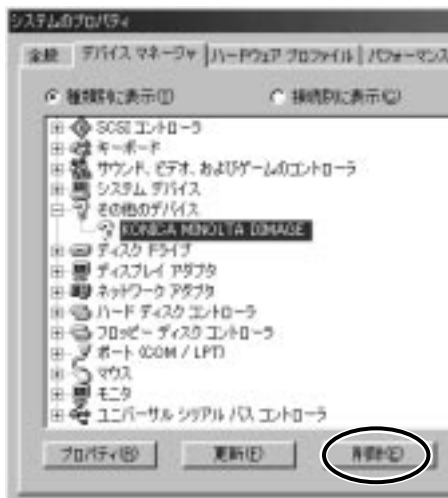
Windows®Me、98、98SE

4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかにカメラ名称（DiMAGE）を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。

- 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
- カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
- 該当する項目が見つからない場合は、カメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

5. 4で選んだ項目を削除します。

- Windows®XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows®Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows®XP、2000

Windows®Me、98、98SE

6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

- Windows®XP、2000、Meの場合は、この後142ページの要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows®98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし(→ P.152)、その後再度USB接続を行ないます(→ P.142)。

QuickTimeのインストール（Windows®のみ）

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。

● Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 6 動作環境

● Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
● 128MB以上のメモリ（RAM）
● Windows®XP/Me/2000 Professional/98/98 Second Edition 各オペレーティングシステム

インストール方法

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [QuickTime インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

● インストール途中に【インストール種類の選択】画面が現れますが、そこでは [基本的なインストール] を選択してください。[最小限のインストール] でインストールした場合、 DiMAGE Viewerでの動画再生・補正時に一部機能が正常に動作しないことがあります。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の [スタート] から [プログラム (P)] → [QuickTime] → [QuickTime Player] を選択します。

2. [ファイル (F)] から [新規 Playerでムービーを開く...(O)] を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、[開く] をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

PCカメラ（Windows®のみ）

カメラがパソコンへの画像入力装置（PCカメラ）になります。Windows NetMeeting, Windows Messengerと連動して、カメラで撮っている映像（動画）を、これらソフトウェアに取り込むことができます。

- ここでは、「Windows NetMeeting」を使用した場合について説明しています。

PCカメラ 動作環境

- PentiumⅡプロセッサ/300MHz以上を搭載した、IBM PC/AT互換機
- Windows®XP/Me/2000 Professional/98 Second Editionオペレーティングシステム
- 128MB以上（Windows®XPでは256MB以上）の実装メモリ
- 200MB以上のハードディスク空き容量
- 800×600ドット以上、High Color（16bit）以上（Windows®XPでは 中（16bit）以上）を表示可能なディスプレイ
- CD-ROMドライブ（ドライバインストール時に必要）
- 動作確認済みアプリケーション
  - Windows NetMeeting
  - Microsoft Windows Messenger

【Windows NetMeetingの画面】

このカメラで撮っている映像（動画）が表示されます。

ネットワークで接続されている相手もPCカメラ機能を持つ同様のカメラを接続して使用している場合は、相手のカメラの映像（動画）が表示されます。

これにより、相手の顔を見ながら話すなどパソコンをテレビ電話代わりにしたり、簡易なテレビ打ち合わせシステムとして利用することができます。

このカメラをPCカメラとしてパソコンへの画像入力装置に使用する際は、別売りのACアダプターセット AC-401のご使用をおすすめします。

PCカメラドライバのインストール

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [DiMAGE PC Cameraドライバインストーラの起動] をクリックします。

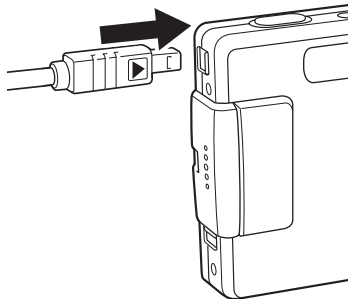
3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

Windows NetMeetingでカメラを使う

1. パソコンの電源を入れます。

2. メインスイッチを押してカメラの電源を入れます。

3. 138ページの要領で、セットアップモードメニュー → [3] → [USB接続] から [PCカメラ] を選び、実行ボタンを押します。

（次ページへ続く ☞）

PCカメラ

4. 付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをカメラのUSB端子に、大きいほうのコネクタをパソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- USBケーブルは奥まで確実に差し込んでください。
- カードは入れなくても構いません。
- 液晶モニター左上に が、上部に PCカメラ が表示され、カメラがPCカメラモードになったことをお知らせします。
- アプリケーション（Windows NetMeeting, Windows Messenger）を起動する前に、PCとカメラをUSBケーブルで接続し、カメラをPCカメラモードにしてください。
- 再生モード（▶）でカメラの電源を入れたときは、PCカメラモードになると自動的にレンズ部のカバーが開きます。

5. Windows NetMeeting を起動します。

- 以下、通話の相手先も Windows NetMeeting を使用・すでに起動しており、PCカメラ機能を持つ同様のカメラを接続していることを前提に説明します。

6.NetMeeting の [ツール(T)] メニューから [ビデオ(V)] → [送信(S)] を選びます。または、ビデオの開始ボタン をクリックします。

- NetMeetingの画面に、このカメラで撮っている映像(動画)が表示されます(左下図)。
- カメラ本体の上下レバーでレンズのズーミングができます。シャッターボタンの半押しでオートフォーカスのピント合わせが行われます。
  NetMeeting の画面からズームとピント合わせの操作をするには → 165ページ

7.通話したい相手のパソコンのIPアドレスを入力して Enter キーを押します。

8.相手に「○○○○ からの通話を受信中」というメッセージが届きますので、[応答する(A)] をクリックしてもらいます。

- 相手のカメラの映像が表示されます。
- NetMeeting の使い方の詳細については、NetMeeting の「ヘルプ」をクリックしてください。
- PCカメラの操作を終了するには、アプリケーション(Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger)を終了させ、カメラの電源を切ってからUSBケーブルを取り外してください。

PCカメラ（Windows®のみ）

※カメラをパソコンにつないでPCカメラモードにしてからアプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を起動してください。アプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を起動してからカメラを接続しても、カメラの映像は表示されません。

※カメラのマイクは使用できません。音声をやり取りしたい場合は、各パソコンに対応したヘッドセット等を別途お買い求めください。

※PCカメラとしてご使用の際は、別売りのACアダプターセット AC-401 のご使用をおすすめします。なお、新品電池をフル充電して使用した場合の使用可能時間は、約130分です（液晶モニターON、ズームとピントは固定）。

- 通話する両者が同じアプリケーションを使用する必要があります。一方が Windows Messengerで、もう一方が Windows NetMeetingでは、通話がつながりません。
- Windows Messenger は Windows®XP上でのみ動作します。Windows NetMeeting は、Windows®98/Me/2000/XP上で動作します。
- インターネットプロバイダから割り当てられている IPアドレスがプライベートアドレスの場合、プロバイダ側の制限でPCカメラの機能を使えないことがあります。詳細はご契約しているプロバイダにお問い合わせください。
- ブロードバンドルーターを利用して家庭内等でネットワークを構築している場合、プライベート IPアドレスで、かつ、ルーターを使って2台以上のパソコンを使用していると、PCカメラの機能を使えません。
- ブロードバンドルーターを通して Windows Messenger や Windows NetMeeting を使うには、そのルーターがユニバーサル・プラグアンドプレイ（UPnP）に対応している必要があります。詳しくはルーターのメーカーにお問い合わせください。
- ブロードバンドルーターにファイアウォール機能が備わっている場合は、新たにポートの設定が必要になることがあります。詳細はルーターの取扱説明書等をご覧ください。
- PCカメラの機能を十分に活用いただくには、ADSL、CATVインターネット、FTTH（光ファイバー）などの高速回線でお使いいただくことをおすすめします。

NetMeeting の画面から、レンズのズーミング（光学/デジタル）とピント合わせが行えます。

1. NetMeetingの画面で [ツール(T)] ー [オプション(O)...] を選び、オプション画面を表示させます(画面が表示されるまで時間がかかることがあります)。

2. [ビデオ] タブをクリックします。

3. [ビデオカメラのプロパティ] の [使用するビデオキャプチャカード(C):] の箇所に、Minolta DiMAGE PC camera driverと表示されていることを確認し、その下の [ソース(U)...] をクリックします。

4. 表示されるカメラドライバの画面で [カメラ制御] タブをクリックします。

● [拡大]スライダーを右側にドラッグすると望遠側に、左側にドラッグすると広角側にレンズがズームします（スライダーを操作してから実際にレンズがズームされるまで多少時間がかかります）。

● [フォーカス]の自動□にチェックを入れると、1回だけピント合わせが行われます。再度ピント合わせを行うには、いったん自動□のチェックを外してもう一度チェックを入れ直します。
レンズをズームさせた直後にも1回だけピント合わせが行われます。そこでピントが合わなかった場合は、自動□にチェックを入れると、もう1回だけピント合わせが行われます。再度ピント合わせを行うには、いったん自動□のチェックを外してもう一度チェックを入れ直します。

その他

PictBridge対応プリンタで画像を印刷する手順や、その他一般的な注意事項、トラブル時の処置等を記載しています。

PictBridgeは、デジタルカメラとプリンタを直接接続して、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンを介さずに印刷するための規格の愛称です。
PictBridgeのロゴが表示された製品同士であれば、お互いの製造メーカーや機種が異なっていても、カメラ側からの簡単な操作で手軽にデジタルフォトプリントを楽しめます。

PictBridge対応プリンタで画像を印刷する

カメラを付属のUSBケーブルでPictBridge対応プリンタに接続し、カメラ内の画像を印刷する方法について説明しています。

カメラをPictBridgeモードにする

- PictBridge対応のプリンタと接続して画像のプリントを行なう場合は、以下に示す手順で、[USB接続] を **[PictBridge]** に設定してください。
- カメラとパソコンを接続してカメラ内の画像をパソコンへコピーする場合は、同様の手順で [USB接続] を **[カードリーダー]** に設定してください。→ P.138
- PictBridge対応のプリンタとカメラとを接続して画像をプリントする場合は、**「JPEG画質の静止画」**のみプリントできます。

1. メインスイッチを押してカメラの電源を入れます。

2. 138ページの要領で、セットアップモードメニュー → [3] → [USB接続] から [PictBridge] を選び、実行ボタンを押します。

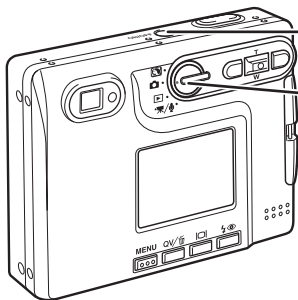
PictBridge対応プリンタで印刷

カメラとプリンタを接続する

● プリントの途中でカメラの電池がなくなると、印刷（プリント）が中断されます。フル充電した電池、または別売のACアダプターセット AC-401の使用をおすすめします。

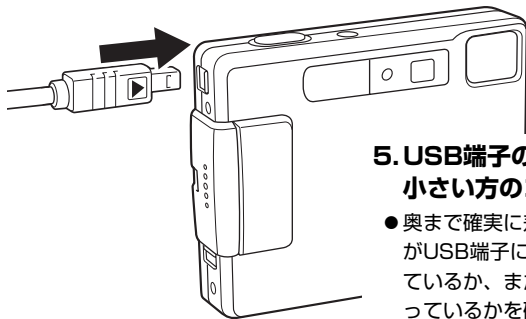
1. プリンタの電源を入れます。

2. 用紙設定など、プリンタ側の設定を行ないます。

● 詳しい設定方法は、プリンタの取扱説明書をご覧ください。
● 日付写し込み（→ P.72）付きの画像をプリントする場合は、二重写し込みを防ぐため、プリンタ側での日付写し込み設定は行なわないでください。
● **用紙サイズや印刷される画像のレイアウト、印刷の品質や画像といっしょに印刷される情報の種類は、ダイレクトプリントメニュー画面でカメラ側からも設定・変更できます。****→ P.177～179**

3. カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

● モード切り替えダイヤルはどの位置でも構いません。

4. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

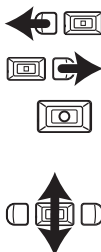
● プリンタ内蔵のUSBポートに直接つないでください。USBハブ経由で接続すると正常に動作しない場合があります。
● 奥まで確実に差し込んでください。

5. USB端子のカバーを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

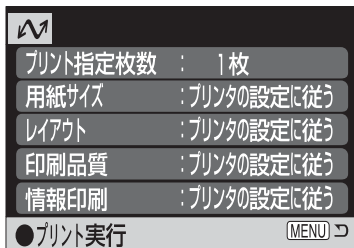
- 奥まで確実に差し込んでください。USBケーブルのコネクタがUSB端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の▶マークがカメラ前面側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。
- 正しく接続されると、「USB接続中」「PictBridge」などのメッセージが現れた後、プリントの初期画面になります。

プリント初期画面

PictBridge対応プリンタで印刷

表示中の画像1コマを印刷する

プリントしたい画像が表示されているときに上下レバー中央の実行ボタンを押すと、印刷設定確認画面が表示されます。再度上下レバー中央の実行ボタンを押すと、表示されていた画像1コマが印刷されます。上下レバーの上下で印刷枚数を設定できます。

1.左右キーでプリントしたい画像を選び、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 印刷設定確認画面（左下図）が表示されます。
- 用紙サイズ、レイアウト、印刷品質、情報印刷についての詳細は、177ページをご覧ください。
- 上下レバーで枚数を指定できます（最大20枚まで）。上側に押すと枚数が増え、下側に押すと枚数が減ります。

2.もう一度上下レバー中央の実行ボタンを押して、プリントを開始します。

- プリント中は以下の画面が表示されます。

- プリントが終了したら左のメッセージが現れます。

3.上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを終了します。

印刷するコマと枚数をあらかじめ指定してプリントする

印刷したい画像とその枚数をあらかじめ指定して、それらをまとめて一度にプリントします。画面左上に印刷合計枚数が表示されます。

1.左右キーで印刷したい画像を選びます。

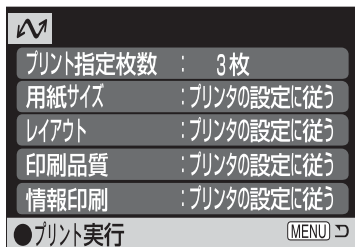
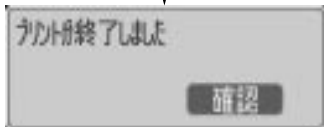
- 印刷指定できないコマの場合は、左図の「プリンタマークのアイコンに斜め線が入ったマーク」が表示されます。

2.上下レバーで印刷枚数を指定します。

- 上下レバーを上側に押すと枚数が増え、下側に押すと枚数が減ります。枚数は、1コマ当たり最大20枚まで指定できます。
- あるコマの枚数を指定し、左右キーどちらかを押すと、画面左上にTotalと印刷合計枚数（左図の例では3）が表示されます。

3.必要なだけ 1.と 2.の操作を繰り返します。

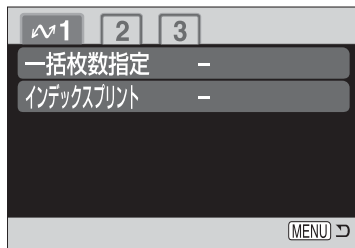
4.印刷したい画像とその枚数をすべて指定し終えたら、上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- 印刷設定確認画面（左図）が表示されます。

（次ページへ続く ☞）

5. もう一度上下レバー中央の実行ボタンを押して、プリントを開始します。

- プリント中は左図の『プリント中』の画面が表示されます。
- 指定枚数分の印刷が終了すると、「プリントが終了しました」の画面が現れます。

6. 上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを終了します。

- 液晶モニターボタンを押すたびに、1コマ表示（左）とインデックス表示（右）とが切り替わります。

ダイレクトプリントメニュー

ダイレクトプリントモード時（画面左上に が表示されているとき）にメニューボタンを押すと、以下に示す設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→ P.50、51

- お使いのプリンタによっては、選ぶことのできない設定もあります。

1	
一括枚数指定（→ P.174）	全コマ
	全コマ取り消し
インデックスプリント（→ P.176）	実行する

2	
用紙サイズ（→ P.177）	[プリンタの設定に従う]
	L
	はがき
	2L
	A4
種類（→ P.178）	[1]
	2
	3

※ [　　　] で囲んだものは初期設定です。

2	
レイアウト（→ P.179）	[プリンタの設定に従う]
	フチなし1コマ/1枚
	1コマ/1枚
	2コマ/1枚
	4コマ/1枚
印刷品質（→ P.179）	[プリンタの設定に従う]
	FINE
情報印刷（→ P.179）	[プリンタの設定に従う]
	なし
	日付
	ファイル名
	日付+ファイル名

3	
DPOFプリント（→ P.180）	実行する

一括枚数指定

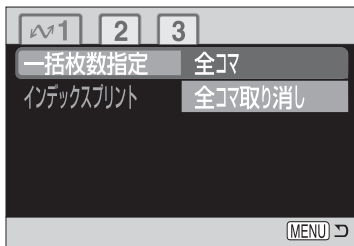
印刷（指定）可能なすべての画像の印刷枚数を一括して指定、および、一括して解除できます。

全コマ指定

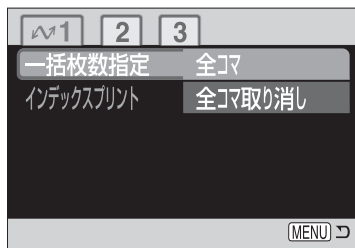
1. メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで［1］→［一括枚数指定］から［全コマ］を選んで実行ボタンを押します。

- 枚数を指定する表示が現れます。
- 動画を除く静止画全コマの印刷枚数を指定できます。

2. 上下レバーで枚数を設定し、実行ボタンを押します。

- 全コマに同じ印刷枚数が設定されます（最大 20枚）。

20コマ×2枚で、印刷合計枚数は40枚になります。

3. メニューボタンを押してダイレクトプリントの画面にもどります。

- 左図は、印刷（指定）可能な画像が全部で20コマあり、印刷枚数を2枚に一括指定した場合の画面です。

全コマ取り消し

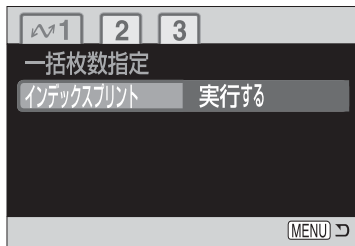
1. メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで [1]→[一括枚数指定] から [全コマ取り消し] を選んで実行ボタンを押します。

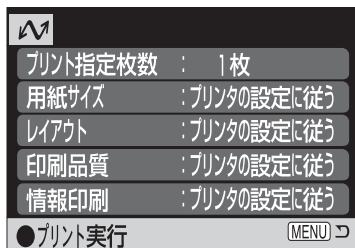
● 以下の確認画面が現れます。

2. 左右キーで [はい] を選んで、実行ボタンを押します。

● 全コマの枚数指定が取り消されます。

インデックスプリント

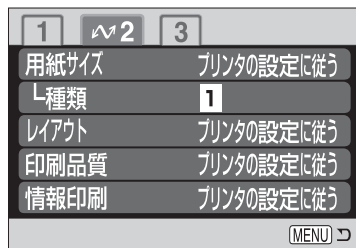
カード内の全画像を、一度にまとめて印刷（インデックスプリント）できます。

1. メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで [1]→[インデックスプリント] から [実行する] を選んで実行ボタンを押します。

● 印刷設定確認画面（左下図）が表示されます。

2. 上下レバー中央の実行ボタンを押して、プリントを開始します。

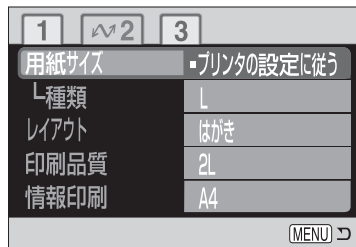
● プリント中は以下の画面が表示されます。

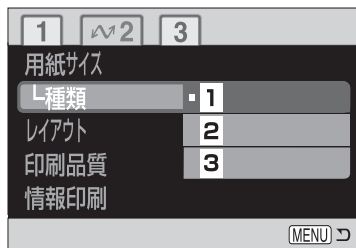
● インデックスプリントが終了すると、「プリントが終了しました」の画面が現れます。

3. 上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを終了します。

印刷設定

PictBridge採用のプリンタと接続時は、メニューの［2］画面で、カメラ側から用紙サイズ、レイアウト、印刷品質、情報印刷の各設定が行なえます。

- 接続しているプリンタによっては、カメラ側からの設定ができない項目もあります。
- プリンタ側で設定を行なう場合やプリンタ側で設定を変える場合は、［プリンタの設定に従う］を選んでください。
- **特に［用紙サイズ］については、このメニュー画面での設定と実際にプリンタにセットされている用紙とが異なることのないようにご注意ください。**

用紙サイズ

メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで［2］→［用紙サイズ］から［希望の用紙サイズ］を選んで実行ボタンを押します。

種類（用紙サイズ）

このメニューで、表示される用紙サイズの選択肢を切り替えます。

メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで[2]→[種類]から[希望の用紙サイズ選択肢]を選んで実行ボタンを押します。

1	主として、日本国内で用いられている選択肢（用紙サイズ）が表示されます。
2	主として、ヨーロッパで用いられている選択肢（用紙サイズ）が表示されます。
3	主として、北米で用いられている選択肢（用紙サイズ）が表示されます。

各種類で●の付いた用紙のサイズが、前ページ［用紙サイズ］の選択肢として表示されます。

用紙サイズ	種類			大きさ
	1	2	3	
プリンタの設定に従う	●	●	●	
L	●			89㎜×127㎜
はがき	●			100㎜×148㎜
2L	●	●		127㎜×178㎜
A4	●	●		210㎜×297㎜
Card size		●	●	54㎜×85.6㎜
100㎜×150㎜		●		100㎜×150㎜
4”×6”			●	101.6㎜×152.4㎜
8”×10”			●	203.2㎜×254㎜
Letter			●	216㎜×279.4㎜

レイアウト

メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで［∿2］→［レイアウト］から［希望のレイアウト］を選んで実行ボタンを押します。

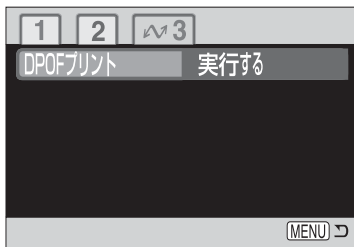
印刷品質

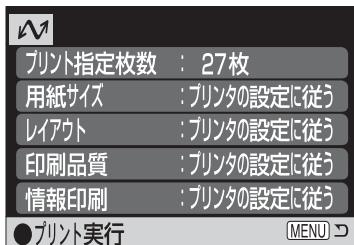
メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで［∿2］→［印刷品質］から［希望の印刷品質］を選んで実行ボタンを押します。

情報印刷

メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで［∿2］→［情報印刷］から［画像といっしょに印字したい情報］を選んで実行ボタンを押します。

DPOFプリント

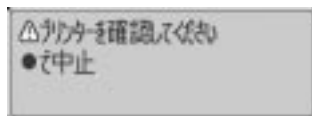
USBケーブルでカメラとプリンタを接続する前に、再生モードメニューでDPOF指定している場合、その内容にしたがって画像をプリントすることもできます。

1. メニューボタンを押し、左右キーと上下レバーで[3]→[DPOFプリント]から[実行する]を選んで実行ボタンを押します。

- 印刷設定確認画面(左下図)が表示されます。
- DPOF指定されていない場合は、このメニューは選べません。

2. 上下レバー中央の実行ボタンを押します。

- DPOF指定の内容にしたがって、印刷が開始されます。印刷中は左図の画面が表示されます。
- 印刷が終了すると、「プリントが終了しました」の画面が現れます。

3. 上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを終了します。

● プリントが終了したら左のメッセージが現れます。上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを終了してください。画像のプリントを終了するには、カメラとプリンタの電源を切って、USBケーブルを外してください。

● プリントが正常に終了すると、印刷の指定はすべて解除されます。

● 左のエラーメッセージが現れた場合は、プリンタ側の問題（用紙切れなど）によりプリントできないことがあります。プリントできない場合は、インクの残量が残り少なくなっていないか、紙詰まりを起こしていないかなどプリンタ側を確認してください。プリントが再開されない場合は、上下レバー中央の実行ボタンを押していったんプリントを中止してください。

● プリント中や上記エラーメッセージ表示中に上下レバー中央の実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止され、左図のメッセージが現れます。

● 表示後しばらくすると左図のメッセージは自動的に消えて、印刷を実行した画面にもどります。印刷の指定は残っていますので、再度170ページからの要領でプリントを行なうことができます。

Adobe Photoshop Album Mini（Windows®版のみ）

付属のDiMAGEビューアーCD-ROMをWindows®パソコンに入れると、Adobe Photoshop Album Mini をインストールすることができます。

1. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [Adobe Photoshop Album Mini インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

Adobe Photoshop Album Mini は、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込み、手早く整理し、アルバムを作成したり、簡単な補正を行うことができます。
また、インターネットに接続して弊社のオンラインラボサービスを利用することで、画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムに画像を保管することもできます。

弊社のオンラインラボホームページ http://onlinelab.jp/ へアクセスすることで、上記の他にもさまざまなサービスが楽しめます。どうぞご利用ください。
（弊社オンラインラボは、Windows®でもMacintoshでもご利用いただけます。）

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
カードが入っていません	カードを入れてください。(カードなしでの撮影については → P.186)		26
カードがロックされています	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	書き込む場合は、カードのライトプロテクトスイッチを「書き込み許可」の状態にしてください。	26
カードは使えません	カードをフォーマット(初期化)してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		124
日付・時刻を設定して下さい	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた	日時を再設定してください。(お買い上げ時にもこのメッセージが現れます。)	28
画像がありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		—
音声を上書きしますか?	すでにボイスメモまたはアフレコが録音されている画像に、新たにアフレコを録音しようとしている	ボイスメモまたはアフレコは一回分しか録音できません。新しい音声を上書きする場合、古い音声は削除されます。	98 99
プロテクトされています	プロテクト(誤消去防止)をかけた画像を消去しようとしている	消去する場合は、先にプロテクトを解除してから消去してください。	96 100
カードに空きがありません	カードの容量がいっぱいになっている	画質を変えるか、画像サイズを変えるか、画像を消去するか、カードを交換してください。	30
コマ指定してください	消去、プロテクト、DPOF(プリント)指定、メール画像作成で「コマを指定」を選んでコマを指定しなかった	どの画像を処理するかで「コマを指定」を選んだ場合は、上下レバーで対象となるコマを選んでください。	96 101 114 117

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影ができない	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、ライトプロテクトスイッチを解除してください。	26
撮影・再生ができない	電池が消耗している	電池を充電してください。	20
	オートパワーオフが作動した	（初期設定では）約3分間以上何も操作をしないでいると、自動的にカメラの電源がOFFになります。	23
	カメラがパソコンに接続されている	パソコンに接続されている間は、撮影や再生はできません。	—
赤い0000が表示され、「カードに空きがありません」のメッセージが表れシャッターが切れない	カードがいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	26 30 58 60 95
液晶モニターが点灯しない	液晶モニターがOFFになっている	液晶モニターボタンを押してONにしてください。	41
緑ランプが点灯せず、すばやく点滅している	オートフォーカスの苦手な被写体（P.38）を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	39
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約15㎝以上離れたものにしかピントが合いません。	38
	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
緑ランプが点灯せず、ゆっくり点滅している	フラッシュ発光禁止や夜景ポートレート撮影のため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	—
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった、または、露出補正が－（マイナス）側に設定されている	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。または、露出補正の値を0.0に戻してください。	40
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	—
写真の左側に画面外のものが写っている	ファインダーを使って近くのものを撮影した	近距離撮影の場合、ファインダーで見る画面と撮影される画面にはずれが生じます。液晶モニターを使って撮影してください。	40
画面の一部に黒っぽいものが写っている	レンズ部分に指や髪の毛がかかっていた	ファインダーを使って撮影すると、レンズに物がかかっていても見えないことがあります。物をかけないようにして撮影してください。	31
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
パソコンがカメラ（カード）を認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	155
	USB接続時のカメラ動作が「PictBridge」または「PCカメラ」になっている	セットアップモードメニューの［USB接続］で［カードリーダー］を選んでください。	138 139

（次ページへ続く ☞）

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
アプリケーション（Windows NetMeeting, Windows Messenger）でカメラが機能しない	PCカメラドライバがインストールされていない	PCカメラドライバをインストールしてください。	161
	USB接続時のカメラ動作が「PictBridge」または「カードリーダー」になっている	セットアップモードメニューの［USB接続］で［PCカメラ］を選んでください。	138 161
	アプリケーションを先に起動してからカメラを接続した	カメラを先にPCカメラモードで接続してからアプリケーションを起動してください。	162 164
PictBridge対応プリンタで印刷できない	USB接続時のカメラ動作が「カードリーダー」または「PCカメラ」になっている	セットアップモードメニューの［USB接続］で［PictBridge］を選んでください。	138 167
カメラが正常に作動しない	カメラの電源を切って電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプターセット使用時は、一度コードを抜いてください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		—

カードなしでの撮影について

このカメラは、カードが入っていなくても静止画の撮影、および、クイックビューができます。
この場合、画像はカメラ内部のメモリに一時的に保存されますが、このメモリは1コマ分の容量しかありませんので、撮影のたびに新しい画像に書き換えられます。したがって、クイックビューで表示できるのは、一番最後に撮影した画像（連続撮影の場合は最後の画像）だけです。
また、メモリに一時保存されているだけですので、カメラの電源を切るとこの画像は消去されます。

取り扱い上の注意

電池について

● 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、完全に充電したばかりの電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
● いったん容量切れになった電池は必ず完全に充電してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

● このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
● 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
● カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

DPOF（プリント）指定について

● 他のデジタルカメラでDPOF（プリント）設定したカードをこのカメラに入れ、このカメラでDPOF（プリント）設定し直すと、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

SDメモリーカード・マルチメディアカードについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去(破壊)されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア(ハードディスク等)にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
  2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. カードへのアクセス中(記録中、フォーマット中など)に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- カードをフォーマット(初期化)すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される映像には影響ありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- レンズカバーには手を触れないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。また湿度の高いところに長時間放置しないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、カメラを作動させてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 製品の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を弊社アフターサービス窓口にお持ち込みください。

アクセサリー（別売り）

マリンケース（防水・防塵）MC-DG300

水深30メートルの防水性を備えたマリンケースです。携帯性に優れているので、ダイビングを始めとするマリンスポーツはもちろん、陸上、アウトドアの一般のアウトドアスポーツでも気軽にお使いいただけます。

ACアダプターセット　AC-401

屋内などAC電源が使える場合は、ACアダプターセットを使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。ACアダプター AC-4 と DCアダプター DA-100 とのセット商品です。

充電器 BC-700用　ACコード

充電器BC-700に付属のACコードはAC100-120V仕様です。日本以外の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは、コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト http://ca.konicaminolta.jp/ の FAQ をご覧ください。

地域	ACコード
ヨーロッパ（イギリスを除く）・中国・韓国・シンガポール向け（220-240V仕様）	ACコード APC-110（別売り）
イギリス・香港向け（220-240V仕様）	ACコード APC-120（別売り）
アメリカ・カナダ向け（100-120V仕様）	ACコード APC-130（別売り）

その他

下記のようなケースやストラップ、予備用のリチウムイオン電池もご用意しております。

・カメラケース CS-DG400/CS-DG800
・カメラケース＆ストラップ CS-DG410
・メタルチェーンネックストラップ NG-DG100
・リチウムイオン電池 NP-200
・本革ケース CS-DG420
・本革ネックストラップ NS-DG400/NS-DG200

アクセサリーの詳細については、弊社DiMAGEシリーズのホームページ http://konicaminolta.jp/dimage/ をご覧ください。

主な性能

カメラ本体

有効画素数	約320万画素
撮像素子	1/2.7型総画素数約330万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO (ISO 50～160相当)、ISO50、100、200、400相当
レンズ構成	8群9枚
焦点距離	5.7～17.1㎜（35㎜フィルム換算：37～111㎜相当）
開放絞り値	F2.8～F3.6
撮影距離	0.15m～∞（カメラ前面から）
最大撮影倍率	0.10（35㎜フィルム換算で0.58倍相当）
ズーム方式	電動インナーズーム
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスフレーム	ワイド（5点マルチ）/スポットフォーカスフレーム切り替え可能
ホワイトバランス	オート、昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯
測光方式	256分割測光、スポット測光
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用 シャッター速度：4～1/1000秒
露出制御方式	プログラムAE
露出補正	±2EV (1/3EVステップ)
フラッシュ制御方式	プリ発光による発光量制御
フラッシュモード	自動発光/赤目軽減自動発光/強制発光/発光禁止
フラッシュ連動距離	広角：約0.15～3.2m、望遠：約0.15～2.5m (カメラ前面から) (撮像感度AUTO時)
充電時間	約6秒
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー
アイポイント	15.3㎜ (接眼レンズより)、14㎜ (接眼枠より)
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、Motion JPEG (MOV)　DCF 1.0準拠 DPOF (Ver. 1.1) のプリント機能に対応 (日付プリントとインデックスプリントのあり/なし選択可能)、Exif 2.2
記録フォルダー形式	標準形式、日付形式

PIM (PRINT Image Matching)Ⅱ	対応
Exif Print	対応
記録画素数	静止画：2048×1536、1600×1200、1280×960、640×480 動画：320×240、160×120
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン
カラーモード	カラー、モノクロ、セピア
ノイズリダクション	あり/なし（選択可能）
Exif. Tag情報	撮影年月日時分、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離、光源、デジタルズーム倍率、彩度、35mm換算焦点距離、コントラスト、シャープネス等）、色空間情報、Exifバージョン etc.
消去機能	あり（1コマ/ボイスメモのみ/全コマ/コマを指定） 独立1枚消去ボタン（クイックビュー/消去ボタン）
誤消去防止機能	あり（1コマ/全コマ/コマを指定）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	年月日/月日時刻/なし（選択可能）
液晶モニター	4.0㎝（1.6インチ）デジタルインターフェースTFTカラー　モニター画素数：約8.5万画素　視野率：約100%
表示内容	撮影時：ライブビュー、各種状態表示 再生時：再生画像（1コマ/インデックス6コマ/動画/音声）、各種状態表示 拡大再生可能：0.2倍刻みで 1.2倍～6.0倍
連続撮影	約1.5コマ/秒（撮影条件に依る）
セルフタイマー	約10秒
動画	ファイル形式：Motion JPEG（MOV）　画素数：320×240、160×120　フレームレート：15フレーム/秒、30フレーム/秒　録画時間：無制限（カードの容量・電池寿命に依る）　音声付き（モノラル）　ナイトムービー機能あり 動画からの静止画切り出し（セレクトショット）可能（15秒の音声も同時切り出し可能）　動画からの動画切り出し 可能

主な性能

音声	ボイスレコード（最大180分）、アフレコ（最大15秒）、ボイスメモ（最大15秒）　ファイル形式：WAVE（モノラル）
デジタルズーム	0.1倍刻みで 1.1倍～4.0倍、なし選択可能
画像合成	あり、フレームの形（9種類）/大きさ（3段階）選択可能
トリミング	あり
フルオートシーンセレクター	あり（ポートレート、スポーツ、風景、夕景から自動選択）　手動選択可能（ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景・夜景ポートレートから選択）
操作音	音1/音2/なし（選択可能）、音量調節可能（3段階）
シャッター音	音1/音2/音3から選択可能、内1種類（音3）はお客様が録音して設定可能
左右キーカスタマイズ機能	あり（露出補正、ホワイトバランス、ドライブモード、撮像感度、なし）
メール画像作成機能	あり（640×480、160×120）
使用電池	専用リチウムイオン電池
外部電源	DC 4.7V（ACアダプターセット使用時）
連続動作時間	連続再生：約240分（専用リチウムイオン電池使用）
撮影可能コマ数	約220コマ（CIPA*準拠：本体同梱の電池・記録メディア使用、液晶モニターON、画像サイズ2048×1536、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%）　*CIPA：カメラ映像機器工業会 約500コマ（本体同梱の電池・記録メディア使用、液晶モニターOFF、画像サイズ2048×1536、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%）
PCインターフェース	USB（2.0対応機器と接続時はフルスピードでのデータ転送となる）
PCカメラ	対応（カメラからの音声出力対応なし）
対応OS（マスストレージ）	Windows®XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition/98 Mac OS 9～9.2.2、Mac OS X v.10.1.3～10.1.5 / v.10.2.1～10.2.8 / v.10.3～10.3.1
対応OS（PCカメラ）	Windows®XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition
PictBridge	対応
使用温度範囲	0～40℃
大きさ	85.5（幅）×67（高さ）×20（奥行き）㎜
質量（重さ）	約120㌘（電池、記録メディア別）

リチウムイオン電池 NP-200

電圧	3.7V
容量	750mAh
使用温度範囲	0～40℃
保管温度範囲	ー20～30℃
使用/保管湿度範囲	45～85%（結露しないこと）
大きさ	31.5（幅）×52.0（高さ）×6.5（奥行き）㎜
質量（重さ）	約20㌘

充電器 BC-700

入力電圧	AC100～240V※
入力周波数	50/60Hz
入力容量	10～13VA
充電出力	DC4.2V 650mA
充電時間	約90分
使用温度範囲	0～40℃
使用湿度範囲	45～85%（結露しないこと）
大きさ	65（幅）×80（高さ）×26（奥行き）㎜
質量（重さ）	約79㌘（ACコードを除く）

※充電器BC-700に付属のACコードを日本以外の国や地域で使われる場合は、その国・地域に応じたACコードを弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは、191ページ、または、コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト http://ca.konicaminolta.jp/ の FAQをご覧ください。

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

次ページへ続く

コニカミノルタ カメラ株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問(FAQ)とその回答などのサポート情報については、以下コニカミノルタカメラ統合ポータルサイトをご覧ください。

http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。

http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 06-6532-6205

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 06-6532-6252

受付時間 10:00～18:00 (日・祝日定休)

0-43325-53284-9

1AG6P1P1793--

9223-2798-61 SY-A312